

## 基準5 教育内容及び方法

### (1) 観点ごとの自己評価

#### < 学士課程 >

5 - 1 教育課程が教育の目的に照らして体系的に編成されており、その内容、水準、授与される学位名において適切であること。

観点5 - 1 - : 教育の目的や授与される学位に照らして、授業科目が適切に配置され(例えば、教養教育及び専門教育のバランス、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。)、教育課程が体系的に編成されているか。

#### 【観点到る状況】

本学では基本理念に沿って、4(6)年一貫教育体制の下、共通教育と専門教育の連携を図りながら、総合大学として幅広い教育を行っている(資料5 - 1 - - A、資料5 - 1 - - B)。学部段階の教育を共通教育科目、基礎教育科目、専門教育科目に区分し、共通教育科目(資料5 - 1 - - C、資料5 - 1 - - D、別添資料5 - 1 - - 1、別添資料5 - 1 - - 2、別添資料5 - 1 - - 3)では、教養科目、情報科学科目、外国語科目、体育・健康科目、及び自然科学の基礎的理解と専門分野とその学際性の理解を身に付けさせる基礎科目の5分野の授業科目を開設している。教養科目では、思想と文化、社会と歴史、人間・生命・環境、自然と数理、科学技術と応用の5つの分野を設置している。

専門教育では、学部・学科の特性に応じた授業科目を開設しており、資格取得(例えば教員免許、学芸員等)にも配慮した内容となっている(資料5 - 1 - - E)。

資料5 - 1 - - A

鹿兒島大学学則(抜粋)

([http://hg.kuas.kagoshima-u.ac.jp/reiki\\_int/reiki\\_honbun/ax89000951.html](http://hg.kuas.kagoshima-u.ac.jp/reiki_int/reiki_honbun/ax89000951.html))

(教育課程の編成方針)

第37条 本学は、本学、学部及び学科又は課程の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成するものとする。

2 教育課程の編成に当たっては、学部及び学科又は課程の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮しなければならない。

(教育課程の編成方法等)

第38条 教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目及び自由科目に分けて編成するものとする。

2 授業科目は、共通教育科目、基礎教育科目及び専門教育科目に区分する。

3 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技又はこれらの併用により行うものとする。

4 前項の授業は、文部科学大臣が定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

- 5 第3項の授業は、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても同様とする。
- 6 授業科目の履修方法その他授業に関し必要な事項は、各学部、教育センター又は留学生センター(以下「各学部等」という。)において定める。

(出典 鹿児島大学学則)

資料5 - 1 - - B

鹿児島大学学位規則(抜粋)

([http://hg.kuas.kagoshima-u.ac.jp/reiki\\_int/reiki\\_honbun/ax89001101.html](http://hg.kuas.kagoshima-u.ac.jp/reiki_int/reiki_honbun/ax89001101.html))

(学位の種類)

第2条 本学で授与する学位は、学士、修士、博士及び専門職学位とする

(学士の学位授与の要件)

第3条 学士の学位は、本学を卒業した者に授与する。

(修士の学位授与の要件)

第4条 修士の学位は、本学の大学院修士課程又は博士前期課程を修了した者に授与する。

(博士の学位授与の要件)

第5条 博士の学位は、本学の大学院博士課程を修了した者に授与する。

2 前項に規定するもののほか、本学の大学院の課程を経ない者であっても、博士論文を提出して学位の授与を申請し、その審査に合格し、かつ、本学の大学院博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認された者にも授与することができる。

(専門職学位授与の要件)

第6条 臨床心理修士(専門職)の学位は、本学の大学院専門職学位課程(臨床心理学研究科の課程)を修了した者に授与する。

2 法務博士(専門職)の学位は、本学の大学院専門職学位課程(司法政策研究科の課程)を修了した者に授与する。

(出典 鹿児島大学学位規則)

資料5 - 1 - - C

共通教育履修案内



(出典 共通教育履修案内)

資料5 - 1 - - D

シラバス (例示: 共通教育授業科目概要 シラバス)

The image shows three documents related to a syllabus. On the left is a cover page for '共通教育 授業科目概要 シラバス' (General Education Course Overview Syllabus) with a red and white diamond pattern. In the middle is a page titled 'シラバスについて' (About the Syllabus) which explains the purpose and structure of the syllabus. On the right is a page titled 'あなたの心選学' (My Heart's Course) which is a form for students to select their preferred courses.

(出典 共通教育 授業科目概要 シラバス)

資料5 - 1 - - E

学部	特性に応じた授業科目の概要
法文学部	<p>法政策、経済情報、人文の3学科よりなる複合学部である。各学科では、教養教育と専門教育がスムーズに連続するよう基礎ゼミを配置し、教養教育と専門教育を楔形に配置して、高年次でも教養科目の取得が可能なシステムをとっている。また、自由科目の設定により、専門の壁を越えた科目の修得が可能になっている。さらに、学生に4年間を通じて自己のキャリア・ビジョンを形成させるために、総合的な教育課程を編成し、実施している。この取組は平成18年度「現代GP」に採択された。</p>
教育学部	<p>幼稚園、小、中、高等学校及び特別支援学校等の教員養成を行う学校教育教員養成課程及び特別支援教育教員養成課程、また、幅広い分野で教育に関わる人材を養成する生涯教育総合課程を設置している。</p> <p>授業科目においては、学部共通基礎科目の外、教職理解科目、教科教育学、専門科目、教育実地研究、自由選択科目の最低修得単位をコース等ごとに定めている。教育学部では以上の外、第4年次の卒業論文、義務教育教員免許志願者にあっては第2年次に計7日間の介護等体験も義務づけている。</p>
理学部	<p>専門教育科目は基礎専門科目、専門科目、自由科目の3科目から構成されている。基礎専門科目は各学科の2教育コース共通に学科として学ぶべき基礎的な講義・実習から構成され、専門科目は各コース用に教育をより専門化した講義、実習、実験から成り立っている。また、他コースの講義を受講できるように有限な時間割の中で工夫している。自由科目は他学科あるいは他学部の講義等のことであり、所属する学科などに縛られず、学問的に幅広く学習できる環境を整えるため、在籍する学科の専門科目の講義として卒業要件の単位数に認定することができる。また、教育職員免許(中学校及び高等学校教諭一種:教科は数学、情報、理科)及び学芸員の資格取得に関する授業も提供している。</p>

医学部	<p>医学科では、医師養成に合致した授業システムとして医学教育コア・カリキュラムに準拠した授業内容並びに形態、基礎臨床統合カリキュラムを導入している。なお、臨床実習としては、ベッドサイドティーチング実習、早期体験学習、診療参加型実習（クリニカルクラークシップ実習）を導入し、さらに、入学時から卒業に至るまで、段階的、継続的な離島医療教育も実施している。また、保健学科では、医療専門職養成課程として、共通教育から専門教育にかけての科目配置について、特に専門教育では、医療人としての適性をはかる早期体験実習や技能を習得する学外実習を学年毎に組み入れ、授業科目のバランスを考慮している。</p>
歯学部	<p>共通教育及び専門科目の大幅なカリキュラム改革を行い、各年進級制とした。共用試験や卒業試験の強化で総合判定の比重を強化し、歯科医師養成に合致した教育内容としている。</p>
工学部	<p>共通教育の授業科目は共通教育科目と基礎教育科目から構成され、これらの授業科目は、1年次と2年次にその多くを受講できるよう時間割を組んでいる。一方専門教育は、1年次から配置し、高年次になるにつれ増加し3年次からは専門教育科目が主体となるように配置している。この楔形教育体制により、工学の各分野の教育と教養教育が体系的かつ効率的に実施できる。</p>
農学部	<p>4学科とも、4年又は6年（獣医学科）の、一貫した楔形カリキュラムが生まれ、入学時、オリエンテーションの期間に全学科の学生に対して農学概論（集中講義）を受講させている。一方、専門教育科目は1年次では概論中心に基礎的な科目を配置し、4年次（獣医学科6年次）では卒業論文研究を中心に行えるようカリキュラムが組まれている。また、実習を重要視しており、例えば、植物生産学コースのカリキュラムでは2年次後期から1年間、農場実習が組まれている上、農場と演習林での集中実習が2単位あり、学生は生物・自然と十分に触れ合うことができる。</p>
水産学部	<p>カリキュラムPDMを用いて、学部で定めたスーパーゴールに従った分野・サブ分野ごとの教育を設計している。この取り組みは、平成17年度の特徴GPに採択されている。</p> <p>必修科目、選択科目等の配置も人材養成目標に従って検討・決定されており、必修と選択科目の配置に十分な配慮がされている。学部の専門教育における必修科目は、各専門分野における必要不可欠な科目と、全専門分野の学生に共通の学部基盤科目である。1年生時は全専門分野に共通した科目を履修し、2-3年生時に専門分野に応じた科目を履修、4年生時に卒業研究を実施することとなっており、教育課程の体系性が確保されている。</p> <p>教養教育の単位数は、卒業に必要な単位数の約1/3で、教養教育と専門教育のバランスをとっている。</p>

## 【根拠資料欄】

- 別添資料5 - 1 - - 1 共通教育科目等の概要と単位の取り方（共通教育履修案内）  
別添資料5 - 1 - - 2 シラバスについて（共通教育授業科目概要）  
別添資料5 - 1 - - 3 平成19年度時間割（教育センター（学士課程））

## 【分析結果とその根拠理由】

共通教育では、教養科目、情報科学科目、外国語科目、体育・健康科目、基礎教育科目を配置している。これを受けて学部教育では、「学生自身の主体的な判断を尊重した、自由なカリキュラム構成」、「専門的知識と幅広い知識の双方が習得できるような自由なカリキュラム構成」、「あらゆる学術分野を網羅した多彩な専門科目」、「高度な専門知識を探究できる専門科目」、「人間性・倫理性を重視しつつ総合的判断能力を目指したカリキュラム」、「資格取得を意識した実技実習を重視したカリキュラム」、「専門分野に精通した応用展開能力を磨けるカリキュラム」等々、総合大学としての本学の基本理念のもとに、学部・学科の自主性を尊重しながら専門性を重視した多様な授業科目を配置しており、大学全体として教育課程の体系的な編成が確保されている。

観点5 - 1 - : 授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっているか。

## 【観点に係る状況】

教育課程の編成趣旨に沿って、共通教育及び学部で講義、演習、実験・実習が展開されている。なお、卒業後の実社会への対応も配慮した内容となっている（資料5 - 1 - - A）。

共通教育の特色として、18年度特色GPに採択された「鹿兒島探訪」の科目群があげられる。この他1年次から2年次に集中的に提供される基礎専門科目は講義、実習、演習から構成され、専門科目への動機付けや導入となっている。

専門教育では、概論形式から各論、実習・実験、関連科目の選択履修、卒業論文へとステップアップを図っており、教育課程編成の趣旨に沿った履修が可能となっている。

## 資料5 - 1 - - A 教育課程の編成趣旨に沿った授業科目（例示）

科目区分名	授業科目名	授業科目の概要等
共通教育科目		
思想と文化	鹿兒島探訪 - 文化 - (共通教育)	鹿兒島は古来様々な人々の活動の舞台となり、独特の文化を創り上げてきました。鹿兒島の民族文化、とりわけ方言、民話、教育、文学、民謡、美術、工芸、祭りを、地域に貢献している各分野のリーダーの方々の講義を聞き、通して、その中に潜む進取の精神や創造力、構想力を理解します。この講義では文化の大切さを認識し、人間の生き様とすばらしさを本質的に考えます。
社会と歴史	たのしい授業と教育 の諸課題 (共通教育)	たのしい授業の実際例としては、「磁石の魅力」「ものとその重さ」「光と虫めがね」「世界の国旗」「おおかみ」「ふんすい」「世界と日本の青年の意識」などを紹介します。それらの授業では、毎回、いくつかの問題に予想を立ててもらいます。  教育の諸問題のなかでは、とくに登校拒否についての講義に時間を割き、ある種の「ことわざ・格言」= 発想法を意識的に適用すると、いままで見えていなかったことがよく見えるようにも

		<p>なり、ものごとはさまざまに考えうるということを実感してもらえたらと思っています。</p> <p>授業方法としては、ビデオや小道具も使います。一方通行にならないように、授業中、学生のみなさんの発言をお願いします(言いたくない時や言うことがない時は「パス!」で、OKです)。何度か簡単な授業評価や感想文をお願いします。</p>
	鹿兒島県の地域課題 (共通教育)	鹿兒島県の抱える地域課題について学習し、地方分権時代の自治体について理解を深めることを目的とする。
	東南アジアの古代文明と古都 (教養科目:法文学部)	さまざまな自然、言語、民族、文化が交錯した東南アジアは、華麗な古代文化が開花した地域でもあります。東南アジアで栄えた古代文明と、その証である古都の遺跡を見ていくことによって、東南アジアの古代史を理解していきましょう。世界遺産のクメールの華・アンコールワット、ベトナム中部に開花したチャンパ王国の聖地・ミソン、シャイレンドラ朝が築いた古代ジャワの仏聖地・ボロブドゥールのほか、多くの古代文明の遺跡を見ていきます。
人間・生命・環境	自分さがしの心理学 (共通教育)	性格テストを多く取り入れて多方面から自分を知る。また、人間関係の体験学習を通して自分を知り、相手を知る試みを行い、対人関係の中での自分をいろいろな実習を通して知る。
自然と数理	地球をつくった人々 (共通教育)	<p>46億年前、星雲の中から誕生した地球は、海洋ができ生物が誕生して現在に至っているという点で、他の太陽系惑星には見られない進化をとげてきた。現代の科学は、水の惑星地球が今まで何をしてきたか、想像を絶する歴史を解き明かしはじめた。その軌跡は人類が「地球像」を、もっと端的には「地球」をつくりあげてきたドラマであるといえる。</p> <p>本講義では大陸移動説からプレートテクトニクス理論まで、20世紀の地球理解の発展を素材にして、そこに登場する人物と社会背景を学び、地球をつくりあげてきた人々の夢と挫折と葛藤の生き様を考える。それを通じて、人類のあくなき真理探究のエネルギーを理解する。</p>
科学・技術と応用	宇宙の利用 (共通教育)	宇宙に出る事は「位置の利」「環境の利」「無重力」など様々な利益がある。これらを生かして従来は不可能だった事を実現し、人類の役に立てるのが「宇宙の利用」である。本講義では宇宙利用の歴史と一般論、宇宙で新しい物質を作る、宇宙から資源の探査、宇宙からの天文観測、放送衛星と通信衛星等様々な利用の内容とそこに使われる技術、人工衛星の運動などについて学ぶ。
	新しい食と農のかたち (農学部)	生きるうえで不可欠な“食と農”をもう一度見直し、その再生に向けた新しい方向性を皆で創造していく。

	動物の病気 (農学部)	動物には様々な病気のあること、その病気を通じての動物と人社会との関係について、理解を深める。
基礎教育科目	英語オープン (外国語科目:法文学部)	By using e-learning system, students will train their listening skills. They will use multimedia online contents dealing with regional topics of Kagoshima. The level is pre-1st grade of English Qualification Test (Eiken). They will use video and voice presentations on e-learning system, but take exams in a class. Also, they have to take a small quizz in almost every class.
	教育心理学概説 (学部共通基礎科目:教育学部)	教育現場において、教師は児童や生徒を的確に理解し適切な指導を行う必要がある。それゆえ人間の行動や認識を理解することは教育において不可欠である。心理学はこのような人間の行動や認識の理解を目指す研究分野である。本講義では「教育」に関する心理学について概括的な知識を得ることを目的とし、教育心理学に関する基本的な理論と実証的な知見について、古典的内容から最新の研究成果までをわかりやすく講義する。主な内容は、教育における認知や社会的行動を中心に行うが、教科教育における心理学的実践や教材研究、視聴覚教育(教育におけるコンピュータ利用)、学級崩壊やいじめなど今日の学校教育で注目されている臨床的問題についても受講生とともに理解を深める。
	微分積分学 A , A (理学部)	自然科学を学ぶ基礎としての微分積分学。
専門教育科目	ミクロ経済学(専門科目:法文学部)	現在、ほとんどの先進諸国においては、資源配分、所得分配といった問題を基本的には市場機構に委ねている。市場経済では、資源配分や所得分配のルールは、各経済主体間の取り決めによってつくられている。企業は、自分の責任の下に生産活動を行い、各家計は自らの選択によって労働に従事し、消費を行っている。これらのそれぞれの意思決定を社会的に調整するものが市場メカニズムである。市場経済は市場における需要と供給を調整する価格メカニズムを組み込んだ経済であり、このメカニズムを解明するのがミクロ経済学の第一の目的である。したがってミクロ経済学は「価格理論」といわれるのである。本講義では、ミクロ経済学の基本的考え方とその理論を講義する。
	教職研究 (教職理解科目:教育学部)	この科目は、入学後比較的早い時期の学生を主たる対象に、教員の職務内容と教職の意義に関する多様な視点からの考察を通じて、将来の進路への関心を喚起することを目標とする。現代の学校教育の課題を広く社会的、歴史的な視野からとらえ、教員がの中で果たすべき役割や新たな可能性を探ること、児童・生徒との豊かな人間関係形成の方途を考えてみること、みずからの自己

		実現の道すじについて検討してみることで等々のねらいをもって学生の期待に即しながら講義を進める。講義の中では、校種のそれぞれにわたって今日の教育課題や教員の活動内容を紹介するとともに、日々学校で生起する課題についての認識を深めるために、学校教育関係者や教職経験者の講話などを折にふれて取り入れていく。また、教育現実に関するさまざまなドキュメントの研究や学生みずからの関心に基づく自発的な学習の場を設ける。
	地球環境科学Ⅰ、Ⅱ (専門科目:理学部: 地球環境科学)	専門分野への導入と先端研究の紹介。
	技術者倫理 (工学部)	近年のIT技術の発展は、我々に革新的な利便性を提供しつつあるが、不正使用による犯罪行為や反社会的・反道徳的な行為も生まれている。高度な産業技術はより快適な社会を構築しつつあるが、大規模な事故や環境破壊の問題も生じ得る。医療技術の進歩は、以前には考えられなかったような生命倫理の問題を我々に突きつけている。このように、科学技術の急速な発展は、科学技術に関わる者に社会に対する適切な判断と責任を担うことを要求している。  本講義の目的は、近い将来に技術を取り扱う学生諸君が、技術の性能にだけ眼を配るのではなく、その技術が社会や環境に対して重大な弊害を与えないためにはどうすればよいか、重大事故や過失を防ぐためにはどのようなシステムを構築すべきか、などについて学び、考えることである。  本講義の履修により、機械工学科の教育目標の1)人類の幸福と福祉、エネルギーと環境、人間と社会などの調和を洞察できること(技術者倫理)の養成を目指している。
	農学概論(農学部)	農業・農学の意義と役割、新しい農学の広がり等を理解し、農学部で学ぶことの意味をしっかりと把握する。
	鹿兒島水産学 (水産学部)	共通教育から専門教育への橋渡しの科目で、鹿兒島県の水産行政(研究を含む)の第一線で活躍する県職員が、水産行政が講じている施策、試験研究の概要を分かりやすく解説する。

## 【根拠資料欄】

なし

## 【分析結果とその根拠理由】

共通教育では、多様な専門教育に対応できるようにカリキュラム編成が行われており、専門教育においても、学部の特性に応じた内容の授業が実施されている。教養科目と専門科目の連携は、基礎専門科目を専門科目へ

の導入科目として位置づけ、段階的に専門教育へ移行する編成となっている。また、時間をかけて専門教育のレベルアップを図っていく楔形カリキュラムが確保できている。以上から、授業の内容は、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものとなっている。

観点5 - 1 - : 授業の内容が、全体として教育の目的を達成するための基礎となる研究活動の成果を反映したものとなっているか。

#### 【観点に係る状況】

学部教育に合致した教員を配置（資料5 - 1 - - A）しており、選考時には研究上の業績や教育上の能力及び分野への適合性も考慮している。個々の教員は最新の研究内容を授業に反映し、研究テーマに根ざした授業を提供するための教育体制を整えている（資料5 - 1 - - B、資料5 - 1 - - C）。

#### 資料5 - 1 - - A

<p>国立大学法人鹿児島大学教員選考規則  <a href="http://hg.kuas.kagoshima-u.ac.jp/reiki_int/reiki_honbun/ax89000771.html">http://hg.kuas.kagoshima-u.ac.jp/reiki_int/reiki_honbun/ax89000771.html</a>          (趣旨)</p> <p>第1条 この規則は、国立大学法人鹿児島大学の教授、准教授、講師、助教及び助手の選考に関し、必要な事項を定めるものとする。</p> <p>なお、選考を行うにあたっては、教育業績、学界及び社会における活動等を考慮するものとする。</p>
---

(出典 国立大学法人鹿児島大学教員選考規則)

#### 資料5 - 1 - - B 授業科目を担う教員の研究活動の反映例(例示)

授業科目名	学部・学科・教員名	研究活動及び主な研究業績等
平和学	法文学部 法政策学科 木村 朗	(主要論文名) 『危機の時代の平和学』法律文化社、2006年5月。
体育科教育	教育学部 保健体育専修 廣瀬 勝弘	(代表的な研究活動) 体育科教育における内容論に収束する諸研究 特に球技の構造及び内容に関する研究 (主要論文名) ・体育科教育における学習課題設定の試案 ・球技分類に関する基礎的研究
人工光合成入門	理学部 生命化学科 楠元 芳文	(代表的な研究活動) (代表的な研究活動) 有害物質・癌細胞の分解無害化およびクリーンエネルギー源(水素)の創製に関する研究 に関する研究 (主要論文名) ・Hybrid Ceramic Beads Synthesized from Natural Minerals and Titanium Dioxide for Cleaning

		<p>Wastewater, ResearchJournal of Chemistry and Environment, <b>10</b>, 7-13 (2006).</p> <p>・ Conformation-dependent Hydrogen Evolution with Cobalt(II)tetraphenylporphyrin Solubilized into Poly(L-glutamate)-Decylammonium Ion Complex, Chemical Physics Letters, <b>428</b>, 436-439 (2006).</p>
感染免疫アレルギー系 微生物学	医学科 小田 紘	<p>(代表的な研究活動)</p> <p>微生物の感染と宿主の防御機構</p> <p>(主要論文名)</p> <p>1.A heat stable component of Bartonella henselae upregulates intercellular adhesion molecule-1 expression on vascular endothelial cells.</p> <p>2.CD14 mediated induction of interleukin-8 and monocyte chemoattractant protein-1 by a heat-resistant constituent of Porphyromonas gingivalis in Endothelial cells.</p>
物理療法学	保健学科 大重 匡	<p>(代表的な研究活動)</p> <p>臨床に応用される新しい温熱療法の研究</p> <p>(主要論文名)</p> <p>Comparison between Thermal Effects of Forearm and Lower-Thigh Bathing-Effectiveness of Bathing Forearms as a Partial Bathing Method-</p>
有床義歯補綴学	口腔顎顔面補綴学分野 長岡 英一	<p>(代表的な研究活動)</p> <p>義歯患者の検査法・病態とその治療法</p> <p>力学的観点からみた歯槽骨の動態</p> <p>義歯性口腔粘膜疾患の病態および治療法</p> <p>人工骨材を用いた義歯支持組織の保全および改善方法</p> <p>有床補綴臨床における診査・診断法</p> <p>高齢者歯科</p> <p>義歯患者の顔貌評価</p> <p>義歯患者の気分評価</p> <p>義歯機能評価</p> <p>摂食嚥下リハビリテーション</p> <p>(主要論文名)</p> <p>オルソパントモグラムによる全部床義歯の診断法、補綴 誌,46,p,675,(2002),</p>
超精密加工学	工学部 機械工学科 近藤 英二	<p>(代表的な研究活動)</p> <p>超精密加工に関する研究</p> <p>(主要論文名)</p>

		<p>1. 近藤英二・岩本竜一・田中一平・皮籠石紀雄, 超精密切削加工されたAl合金の仕上げ面性状に及ぼす工具摩耗の影響(第1報)、単結晶ダイヤモンドRパイトの切れ刃の摩耗が加工硬化と残留応力に及ぼす影響 精密工学会誌, 72巻6号(2006-6), pp. 766-771.</p> <p>2. 近藤英二・岩本竜一・田中一平・皮籠石紀雄, 超精密切削加工されたAl合金の仕上げ面性状に及ぼす工具摩耗の影響(第2報)、単結晶ダイヤモンドRパイトの切れ刃の摩耗が表面粗さに及ぼす影響, 精密工学会誌, 72巻7号(2006-7), pp. 903-908. 代表的な研究活動 超精密加工 に関する研究</p>
農業市場学	農学部 岩元 泉	<p>(代表的な研究活動) 農業市場に関する研究</p> <p>(主要論文名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対日加工野菜輸出産地における品質管理システムの形成過程. 農業市場研究, 14, 11-19 (2005)</li> <li>・Kataribhog rice marketing system in Dinajpur district, Bangladesh. Mem. Fac. Agr. Kagoshima Univ., 41, 19-50(2006)</li> </ul>
水族栄養飼料学	水産学部・水産学科 越塩 俊介	<p>(代表的な研究活動) 魚類・甲殻類における栄養要求の解明及び魚類の健全性を目指した低コスト養魚飼料の開発</p> <p>(主要論文名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Koshio, S. et al.(2006): Effect of dietary bovine lactoferrin on growth response, tolerance to air exposure and low salinity stress conditions in orange grouper <i>Epinephelus coioides</i>., <i>Aquaculture</i>, 255, pp.507-513.</li> <li>・Koshio, S. et al.(2006): Growth and phosphorus loading by partially replacing fishmeal with tuna muscle by-product powder in the diet of juvenile Japanese flounder, <i>Paralichthys olivaceus</i>., <i>Aquaculture</i>, 257, pp.437-445.</li> </ul>

資料5 - 1 - - C

授業科目概要（シラバス）と研究者総覧

例示：水産学部（<http://isostu.fish-iso.jp/syllabus/search/syllabusSchedule.php>）



研究者総覧

（<http://kurI.cc.kagoshima-u.ac.jp:591/kurI/start.html>）



ISO WEB Faculty of Fisheries, Kagoshima Univ.			
授業科目	漁業管理学演習 Tutorial on management of Marine Capture Fisheries	開講期	6期
キーワード	統計的漁業、漁獲検査、コーストフィッシング、漁具選択性		
担当教員	教員室	質問受付時間	
松岡 達郎	漁業工学講座管理研究棟1階120号室	水曜日08:30~17:00 (ただし、学部の諸会議以外の時間帯)	
授業目標	<p>漁業管理学で学んだ、現在の漁業が抱える問題とそれらを解決するべく使われている対策、研究の手法をより深く学び、実務能力を身につける。代表的な漁業種と漁具を例として、漁業技術が漁業資源環境にも与える影響を評価し、漁業管理、規制などを決定するための科学的実例を得るための手法の実務的演習を行う。</p>		
講義内容	<p>第1回 総論：漁業管理に必要な評価・分析法の統計的基礎 -1                  第2回 漁業管理に必要な評価・分析法の統計的基礎 -2                  第3回 漁業管理に必要な評価・分析法の統計的基礎 -3                  第4回 有鱗魚漁獲検査推定法(魚資源調査)-1                  第5回 有鱗魚漁獲検査推定法(魚資源調査)-2                  第6回 ②コーストフィッシング死亡量推定法(かじ漁業)-1                  第7回 ②コーストフィッシング死亡量推定法(かじ漁業)-2                  第8回 ①漁具の選択性実験・推定法-①(感度調整漁具)-1                  第9回 ①漁具の選択性実験・推定法-①(感度調整漁具)-2                  第10回 ④漁具の選択性実験・推定法-④(刺し網・碇網漁具・石田の方法)-1                  第11回 ④漁具の選択性実験・推定法-④(刺し網・碇網漁具・石田の方法)-2                  第12回 ⑤漁具の選択性実験・推定法-⑤(刺し網漁具:KM法)-1                  第13回 ⑤漁具の選択性実験・推定法-⑤(刺し網漁具:KM法)-2                  第14回 ⑤漁具の選択性実験・推定法-⑤(刺し網漁具:KM法)-3                  第15回 ⑥の網目規制決定法(網漁業)-2</p>		
理解すべき項目	統計学・統計計算の基礎とそれらのコンピュータソフトを用いた実行、漁獲量推定、コーストフィッシング死亡量推定、漁具の選択性計算法		
参考書	山北出版：統計学要綱		
注意事項	<p>話題(単元)ごとに、実際の野外調査実例を題材とした教材をみえる。それらについて、コンピュータソフト(エクセル)を用い、主に統計学を用いた計算法・分析法に取り組む。</p>		
履修要件	国際漁業管理工学または漁業管理学を履修していること。		
成績評価の方法	演習参加費を50%、提出物成績(演習で作成したファイル類を含む)を50%として総合評価し、合格基準達成者を採択率30%、良40%、可30%になるよう相対評価する。		
合格基準	キーワードに掲げる項目について、漁業管理のために必要な技術的手法に関する計算・評価等が自らできること。		
関連項目	水産資源環境と漁業技術の評価と管理について学びたい学生に通じている。		

(出典 鹿児島大学ウェブサイト)

【根拠資料欄】

なし

【分析結果とその根拠理由】

教養教育、専門教育ではカリキュラム編成の特性に応じて、個々の教員の教育研究内容及び実績等を踏まえた教員配置がなされている。教員選考の際に担当科目又は分野を明確に示して公募し、専門性や授業遂行上の能力も評価している。以上から授業の内容が研究活動の成果を反映したものとなっている。

観点5 - 1 - : 学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成(例えば、他学部の授業科目の履修、他大学との単位互換、インターンシップによる単位認定、補充教育の実施、編入学への配慮、修士(博士前期)課程教育との連携等が考えられる。)に配慮しているか。

#### 【観点に係る状況】

学生の多様なニーズに応えるために、他学部・他学科の単位認定(資料5 - 1 - - B)を始め、九州各県や県内及び他地域の大学等との単位互換及び放送大学との単位互換制度(資料5 - 1 - - C、別添資料5 - 1 - - 1)を設けている。さらに、国際学术交流協力校への学生の派遣、受け入れによる単位互換制度も整備している。また、編入学制度は、19年度の場合、法文、教育、理、医、工、農の6学部で実施しており、入学前の履修単位の認定及び入学後の履修方法等について配慮している。

また、新入生を対象に、高校での非選択科目の補習教育(別添資料5 - 1 - - 2)を実施しており、数学・物理を工学部、化学を農学部、生物を水産学部、英語を教育学部が担当して、専門教育のための基礎学力の充実を図っている。

なお、インターンシップなどの学生に配慮した各種制度も、学部の特性を踏まえたものとなっている。(資料5 - 1 - - A、別添資料5 - 1 - - 3)

社会からの要請に関しては、畜産県としての地域社会へのニーズに応じるために、農学部の獣医学科の拡充などを行っている。

#### 資料5 - 1 - - A

工学部では、その専門性教育の観点から、全学科で専門科目の中に、「インターンシップ」又は「工場実習」という1単位の授業科目を開設し、実社会とのつながりを学ぶことの必要性を教えている。

農学部では、生物資源化学科で卒業生を含む企業等の第一線の技術者、研究者、経営者による「バイオ産業論」を開講し、卒業生の主たる就職分野、バイオサイエンス関連産業の現状と将来展望を把握させ、職業意識を啓発している。獣医学科では、県の技術系行政職員などによる「獣医畜産法規」を開講し、家畜衛生関係及び公衆衛生関係の法規、行政の実際を学ばせている。生物生産学科では、アグリビジネス研修という科目を3年次履修科目に新設した上、インターンシップ参加学生に単位を認定し、インターンシップへの積極的な参加を促している。なお、全学の共通教育の学外研修科目として、農学部の教員が「国際協力農業体験講座(マンマー・タイ)」、「国際農学・農業体験講座、北米コース」の2科目を担当している。

水産学部では、平成19年度から、学生のニーズ及び社会の要請に基づきカリキュラムそのものが継続的に改訂される制度とした。また、東京海洋大学専攻科との連携船舶職員養成施設を持っている。二大学で履修した単位を統合することで要件を満たすようにしたこの制度は、練習船の共同利用を大いに促進している。

医学部医学科では、診療参加型実習(クリニカルクラークシップ実習)で、各学生が希望する学外の施設で臨床教授等の指導による実習を推進している。保健学科では、1年次の初期体験実習に始まり4年次の学外臨床実習にいたるまでに、臨床教授等の指導による段階的な学外実習を推進している。

## 資料5 - 1 - - B

鹿児島大学学則（抜粋）

（[http://hg.kuas.kagoshima-u.ac.jp/reiki\\_int/reiki\\_honbun/ax89000951.html](http://hg.kuas.kagoshima-u.ac.jp/reiki_int/reiki_honbun/ax89000951.html)）

（他学部等の授業科目の履修）

第44条 学生は、各学部及び教育センターの定めるところにより、他学部等の授業科目を履修することができる。

（他大学等における授業科目の履修等の取扱い）

第45条 教育上有益と認めるときは、各学部は、学生が学長の許可を得て本学と他の大学又は短期大学との協議に基づき当該他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、学生が、外国の大学又は短期大学に留学する場合及び外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

3 教育上有益と認めるときは、学生が休学期間中に外国の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

4 教育上有益と認めるときは、各学部は、学生が行う他の短期大学又は高等専門学校専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、当該学部又は教育センターの定めるところにより単位を与えることができる。

5 前4項の規定により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、合わせて60単位を超えないものとする。

6 第1項に規定する学長の許可は、当該学部の教授会の議を経て行う。

（出典 鹿児島大学学則）

資料5 - 1 - - C

単位互換について (<http://kss.kuas.kagoshima-u.ac.jp/kyomu/risyu/>)



単位互換制度（鹿児島県内の大学・短大等による単位互換ネットワーク）（受験生のための大学案内 P9抜粋）

**■制度の概要**  
KRICE（クライス）キャンパス鹿児島は、鹿児島県内の大学・短大等が参加している単位互換制度です。この制度は、柔軟に利用でき、参加校が提供している履修科目を修得すれば鹿児島大学の単位として認定される制度です。

**■幅広い分野、豊富な科目数**  
参加校は、個性あふれる特色ある履修科目を提供しています。例えば、歴史、芸術、スポーツ、社会福祉など幅広い分野にわたっており、参加校全体で年間約1,500科目にも達しています。

**■履修の手続きについて**  
出願は、所定の期日までに所定の手続きで行います。また、単位認定可能な科目、単位数など所定の手続きによって異なりますので窓口で確認してください。

放送大学との単位互換制度



（出典 鹿児島大学ウェブサイト）

【根拠資料欄】

- 別添資料5 - 1 - - 1 単位互換制度について（ウェブサイト、実施要項）
- 別添資料5 - 1 - - 2 補習教育の実施状況（平成18年度受講状況、平成19年度開設科目）
- 別添資料5 - 1 - - 3 インターンシップ実施状況（平成18年度）

【分析結果とその根拠理由】

学生の多様な要望に応えるため、他大学、他学部等の単位互換、編入学、インターンシップの単位認定等を

行っている。また、学生の資質向上と教育の充実という視点から補習教育にも力を入れている。社会からの要請に関しても、特に地域社会を重視する立場から教育編成に対応している。

以上から、学生の多様なニーズに対応した教育課程の編成に配慮している。

観点5 - 1 - : 単位の実質化への配慮がなされているか。

#### 【観点に係る状況】

授業科目の履修は、学則（資料5 - 1 - - A）等に従い、学部によって履修登録単位数の上限（每期20単位程度）（別添資料5 - 1 - - 1）を設け、各科目に対して十分な学習時間が確保できるよう設定している。シラバスで「講義概要（目的と内容）」、「達成目標」、「授業計画」、「必要な教科書、参考書」、「修得すべき科目・必要な知識」等を記載し、自主的学習目標が設定可能になっている。各学部・学科では、授業科目の流れをカリキュラム一覧表の形で明示し、学生が主体的に判断できるように配慮している。

また、シラバスにオフィスアワー、担当教員の連絡先を記載し、授業時間外であっても質問できる体制を取っている。

さらに、GPA制度（資料5 - 1 - - B、別添資料5 - 1 - - 2）は、19年度から共通教育で全学的に開始した。専門教育でも、先行の工学部、水産学部に続き、18年度から法文学部で導入し、現在、全学的に導入する方向で検討している。

また、e-learning（別添資料5 - 1 - - 3）を利用したきめ細かな個別指導も積極的に取り入れるよう試みている。

#### 資料5 - 1 - - A

鹿兒島大学学則（抜粋）（[http://hg.kuas.kagoshima-u.ac.jp/reiki\\_int/reiki\\_honbun/ax89000951.html](http://hg.kuas.kagoshima-u.ac.jp/reiki_int/reiki_honbun/ax89000951.html)）  
（履修科目の登録の上限）

第43条 各学部は、学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、学生が1年間又は1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を定めるものとする。

2 各学部は、その定めるところにより、所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、前項に定める上限を超えて履修科目の登録を認めることができる。

（単位の授与）

第48条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。ただし、第40条第2項に規定する授業科目については、各学部等で定める方法により学修の成果を評価して、単位を与えることができる。

2 第38条第4項の授業方法により与える単位数は60単位を超えないものとする。

3 第41条の規定により授業時間の履修をもって単位に代える授業科目に係る第1項本文の適用については、同項本文中「所定の単位を与える」を「修了を認定する」とする。

（出典 鹿兒島大学学則）

資料5 - 1 - - B

GPA制度について（工学部を例示）  
 （GPAについて） （進級要件 例）  
 (<http://ace.cen.kagoshima-u.ac.jp/html/gpa.htm>) (<http://www.mech.kagoshima-u.ac.jp/sinkyu.html>)



（出典 鹿児島大学ウェブサイト）

【根拠資料欄】

- 別添資料5 - 1 - - 1 履修科目の登録上限及び単位について（学部規則抜粋）
- 別添資料5 - 1 - - 2 鹿児島大学におけるGPA制度について（共通教育履修案内）
- 別添資料5 - 1 - - 3 Moodle 利用の手引き（教育センターeラーニングシステム）

【分析結果とその根拠理由】

履修登録単位数の上限を設け、十分な学習時間を確保させるように配慮し、GPA制度を共通教育及び、一部の学部の専門課程で導入している。また、オフィスアワーの設置やメール等を利用した個別の質問に対応する体制を整備し、学生の学習体制の充実が図られている。

以上から、単位の実質化への配慮がなされている。

観点5 - 1 - : 夜間において授業を実施している課程（夜間学部や昼夜開講制（夜間主コース））を有している場合には、その課程に在籍する学生に配慮した適切な時間割の設定等がなされているか。

【観点到係る状況】

該当なし

【根拠資料欄】

【分析結果とその根拠理由】

5 - 2 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。

観点5 - 2 - : 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、多様なメディアを高度に利用した授業、情報機器の活用、TAの活用等が考えられる。）

【観点到係る状況】

共通教育及び各学部・学科では、教育目的の実現に向け、講義、演習、実験、実習等の授業形態を、分野に応じて学習効果の視点から適切に組合せており、目標とする教育内容に応じた学習指導法の工夫がなされている。実験・実習、演習などで少人数教育を展開するとともに、情報機器についても全学的・学部ごとの施設に関しても充実を図り、学習しやすい環境を整えている。（資料5 - 2 - - A）

併せて、授業補助など、TAの活用を積極的に推進し、フィールド型授業も、積極的に実施している。特に地域教育の分野では、積極的に学外に調査・体験に出かけている。

また、JABEE 認定分野別要件で定められた規定による教育内容の工夫（工学部）（資料5 - 2 - - B）、ISO（国際標準化機構）9001 の教育システムでのカリキュラム管理（水産学部）（資料5 - 2 - - C）など、特色ある学習指導法を採用している学部や、大学教育支援プログラム（GP）に採択されたものもある（資料5 - 2 - - D）。

資料5 - 2 - - A 学習指導法の工夫がなされている授業等（例示）

特徴的な授業等	科目名（学部）
少人数授業	欧文演習（農学部） 臨床実習（農学部） 魚病学実験（水産学部）
対話・討論型授業	実験データのまとめ方（水産学部） 国際海洋開発論演習（水産学部）
フィールド型授業	農場実習（農学部）

	アグリビジネス研修（農学部） 水産資源乗船実習（水産学部） 沿岸域乗船実習B・E・T（水産学部） 遠洋調査実習（水産学部）
情報機器の活用	農業統計情報学（農学部） 情報処理演習（農学部） 環境情報科学基礎実験（水産学部） 環境情報処理学（水産学部） 分子生物学（水産学部）
学外講師の活用	バイオ産業論（農学部） 総合臨床実習（農学部）
特徴ある授業	実用英語（水産学部）

資料5 - 2 - - B

J A B E E 認定（工学部）  
 ウェブサイト（<http://www.eng.kagoshima-u.ac.jp/home/event.html>）



The image shows a screenshot of a website on the left and three JABEE certification certificates on the right. The certificates are for the Faculty of Engineering at Kagoshima University, covering various programs like Applied Chemistry, Mechanical Engineering, and Electrical Engineering. The certificates are dated from 2004 to 2005.

（出典 鹿児島大学ウェブサイト）

資料5 - 2 - - C

ISO 教育システム（水産学部）  
 ウェブサイト（[http://www.fish.kagoshima-u.ac.jp/HP2004/iso9001/faculty\\_introduction.htm](http://www.fish.kagoshima-u.ac.jp/HP2004/iso9001/faculty_introduction.htm)）



The image shows a screenshot of a website on the left and two ISO 9001 registration certificates on the right. The certificates are for the Faculty of Fisheries at Kagoshima University, issued by JABEE. The certificates are dated from 2004 to 2005.

（出典 鹿児島大学ウェブサイト）

## 資料5 - 2 - - D 大学教育支援プログラム (GP)

17年度 ・特色GP「ISOを活用した教育システムの展開」(水産学部) ・医療人GP「離島へき地医療を志す医師教育支援」(医学部・歯学部附属病院)
18年度 ・特色GP「鹿兒島の中に世界をみる教養科目群の構築」(教育センター) ・現代GP「地域マスコミと連携した総合的キャリア教育」(法文学部) ・医療人GP「離島へき地医療を支える総合小児科医養成」(医学部・歯学部附属病院)

## 【根拠資料欄】

なし

## 【分析結果とその根拠理由】

各学部の授業形態は、学科等の特性に応じ、講義、実験等を組合せた教育内容となっている。そのバランスは、学年進行に伴って演習、実験等の割合が高くなり、卒業研究実施に備えるように工夫されている。少人数授業・教育では、特に専門教育において研究室のセミナー、演習、実験などで実施しているものが多く、問題解決型チュートリアル授業、対話・討論型の授業を展開している学部・学科もある。

フィールド型授業では、特に地域教育の分野で調査が必要な研究テーマでは、積極的に学外に調査・体験に出かけている。

学習指導法の工夫としては、学部・学科の特性に応じて、授業補助など、TAや情報機器を積極的に活用している。この他、JABEEで定められた規定による教育内容の工夫や、ISO9001を教育システムでのカリキュラム管理に取り入れるなど、特色ある学習指導法を採用している学部がある。また、地域貢献を中心とした特色を持った教育プログラムは、大学教育支援プログラム(GP)にも数多く採択されている。

以上から、教育の目的に照らして、学士課程全体として、授業形態の組合せ・バランスは適切であり、学習指導法の工夫がなされている。

観点5 - 2 - : 教育課程の編成の趣旨に沿って適切なシラバスが作成され、活用されているか。

## 【観点到る状況】

シラバスは、各学部で教務委員会の指示のもと、学科等の特色に応じて作成している(前述資料5 - 1 - - D)。授業内容、学習目標、授業計画、必要なテキストや参考図書等に加えて成績評価方法やオフィスアワー等も記載し、履修しやすいように工夫している。また、教員に対してシラバス作成の手引き(別添資料5 - 2 - - 1)を用意し、教育課程の趣旨に沿った適切なシラバスが作成されるようにマニュアル化している。

シラバスは、共通教育も含め全学部でウェブ上で公開するとともに、ほとんどの学部で冊子で配布している。

共通教育では、シラバスに記載した「学生が達成すべき目標」等を初回の講義で十分に説明し、「授業計画」に沿って講義を行っている。授業評価アンケートではシラバスに関する設問を入れ、FD委員会等で分析、検討を行っている。改善例としては、シラバスに教育目標のキーワードを記入する欄を設けたことなどがあげられる。

## 【根拠資料欄】

別添資料5 - 2 - - 1 シラバス作成の手引き（教育センター）

## 【分析結果とその根拠理由】

各教員が、記載マニュアルを参考にして、教育課程の編成趣旨に沿ってシラバスを作成している。教員は講義中に、学生に対し十分な周知を図り、履修計画を立てやすい構成とし、併せてウェブ上で公開と冊子配付することで、活用を促進している。構成及び記載内容は、学部のカリキュラム委員会やFD委員会等で検討し、改善している。

以上から、適切なシラバスが作成され、十分に活用されている。

観点5 - 2 - : 自主学習への配慮、基礎学力不足の学生への配慮等が組織的に行われているか。

## 【観点到に係る状況】

高校での非選択科目による学力不足者、補習を希望する者など、基礎学力不足の新入生を対象に、各12回の英語、数学、物理、化学、生物の補習授業（補習授業A）（前述別添資料5 - 1 - - 2）を行っている。18年度は英語で28名、数学で59名、物理で102名、化学で20名、生物で11名の受講希望者があった。19年度から、さらに効果を高めるために、教育センター基礎教育科目専門委員会に数学、物理、化学、生物の基礎教育科目検討小委員会を設置し、新しい補習授業（補習授業B）を実施することとした。19年度からは、留学生には英語による「物理」の補習授業も実施している。学部によっては、年1-2回行う学生個人面談を通して、各教員が自主学習の推奨や基礎学力不足学生へのアドバイスなども行っている。

その他、自習活動を支援するために、附属図書館（別添資料5 - 2 - - 1）の開館時間の延長、共通教育棟の一部の講義室の開放（別添資料5 - 2 - - 2）等を行っている。また、オフィスアワーを設定し、担当教員の連絡先も公開し、質問には随時応じる体制をとっている。

## 【根拠資料欄】

別添資料5 - 2 - - 1 中央図書館利用案内（附属図書館リーフレット）

別添資料5 - 2 - - 2 パソコン室の利用とマナーについて（例示：共通教育棟パソコン教室）

## 【分析結果とその根拠理由】

新入生を対象に基礎学力不足の学生に対して補習授業（補習授業A）を行ってきたが、より充実させるために教育センターでは改善策を検討し、19年度から新たに補習授業（補習授業B）も行うこととした。また、学習施設の開放時間の延長等の自主学習への配慮も行っている。以上から、自主学習への配慮、基礎学力不足の学生への配慮等については、組織的に行われており、改善に向けた取組も行われている。

観点5 - 2 - : 通信教育を行う課程を置いている場合には、印刷教材等による授業（添削等による指導を含む。）、放送授業、面接授業（スクーリングを含む。）若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整備され、適切な指導が行われているか。

【観点に係る状況】

該当なし

【根拠資料欄】

【分析結果とその根拠理由】

5 - 3 成績評価や単位認定、卒業認定が適切であり、有効なものとなっていること。

観点5 - 3 - : 教育の目的に応じた成績評価基準や卒業認定基準が組織として策定され、学生に周知されているか。

【観点に係る状況】

成績評価や卒業の基準は、規則及び細則等（別添資料5 - 3 - - 1）に定められ、シラバス及び「履修の手引き」により学生に周知されている。

成績評価基準は個別の授業に適した形で、出席・課題提出・試験のウェイトが設定され、割合はシラバスに明記している。

卒業認定基準は、「新入生オリエンテーション」及び2・3年次に開かれる専門教育履修のためのオリエンテーションで説明され、入学時の「履修案内」（別添資料5 - 3 - - 2）の配布によっても周知されている。

なお、共通教育では、GPA制度を19年度から導入し、科目GPやGPAに関する成績評価基準を、学則等に明示し、各授業科目の成績評価基準も、WEBシラバスに掲載している。

【根拠資料欄】

別添資料5 - 3 - - 1	成績・卒業要件（各部局規則抜粋）
別添資料5 - 3 - - 2	共通教育科目等の履修基準（共通教育履修案内）

【分析結果とその根拠理由】

成績評価基準と卒業認定基準は、学則によって規定された学部規則及び細則において組織として明確に策定され、履修要項に明示されている。各授業科目の成績評価基準は科目毎の特色を考慮した上で、出席・課題提出・試験のウェイトを定め、シラバスに明示し、入学時オリエンテーション等で周知している。

以上から、目的に応じた成績評価基準や卒業認定基準が組織として策定され、周知されている。

観点5 - 3 - : 成績評価基準や卒業認定基準に従って、成績評価、単位認定、卒業認定が適切に実施されているか。

#### 【観点に係る状況】

成績評価は学部ごとに、講義、演習科目は定期試験を主に、日常のレポート、小テスト、出席率などを考慮して総合的に行われている。また、実験、実習科目は、レポート課題、実習中の取組姿勢等、授業科目の目的に沿った成績評価が行われている。

卒業認定も、学部ごとに認定要件を定めて適切に実施している（別添資料5 - 3 - - 1）。卒業論文を条件としている学部学科では、卒業論文発表会で厳密な審査が行われている（別添資料5 - 3 - - 2）。

また、工学部はJABEE認定、水産学部ではISO9001に教育プログラムが認定されており、これらでは成績評価、単位認定、卒業認定に関しても認定時に厳格な審査がなされている。

#### 【根拠資料欄】

別添資料5 - 3 - - 1 卒業要件単位数及び履修方法（共通教育履修案内）  
別添資料5 - 3 - - 2 成績評価・卒業認定の流れ図（部局例示：教育学部、工学部）

#### 【分析結果とその根拠理由】

成績評価は、授業の目的に沿った評価基準によって厳格に単位認定が行われ、卒業認定は規定の単位の修得及び審査会の議を経た卒業論文によって行われている。また、一部の学部ではプログラム認定を通して、外部者によるチェックが行われている。以上から、成績評価、単位認定、卒業認定が適切に実施されている。

観点5 - 3 - : 成績評価等の正確性を担保するための措置が講じられているか。

#### 【観点に係る状況】

本学では、厳正な成績評価を行う一方で、レポートの返却及び、学部によっては試験問題の解答例や採点基準の開示、試験答案の返却に心掛け、成績評価に対して厳格に実施し、学生から疑義が生じないように努めている。さらに正確性を向上させるために、19年度から全学的に申し立て制度（別添資料5 - 3 - - 1）を導入した。

#### 【根拠資料欄】

別添資料5 - 3 - - 1 成績評価に対する申立制度実施要項、事例（部局例示：共通教育、工学部）

## 【分析結果とその根拠理由】

成績に関する疑義に対しては個別に対応し、公正に実施してきたが、19年度から全学的に制度化し、より公平な成績評価・単位認定ができるよう整備した。以上から、成績評価等の正確性を担保するための措置は講じられている。

## &lt;大学院課程&gt;

5 - 4 教育課程が教育の目的に照らして体系的に編成されており、その内容、水準、授与される学位名において適切であること。

観点5 - 4 - : 教育の目的や授与される学位に照らして、教育課程が体系的に編成されており、目的とする学問分野や職業分野における期待にこたえるものになっているか。

## 【観点到に係る状況】

本学は、修士（博士前期）、博士（博士後期）含め8研究科を有している。各研究科では、個々の教育目的（資料5 - 4 - - A）に応じて体系化された教育課程（別添資料5 - 4 - - 1、別添資料5 - 4 - - 2、別添資料5 - 4 - - 3）を編成し、それぞれの学問分野や職業分野の期待に応えている。

## 資料5 - 4 - - A

人文社会科学研究科	地域ニーズに根ざしたものや、南九州とアジア諸国との国際協力のあり方、自然・文化・歴史的環境と人間活動の相互作用の解明と文化的発展、医療・福祉・教育・司法・産業等における心のケア、などを指導的に行うことのできる高度専門職業人の養成を目指した内容となっている。
教育学研究科	現代教育の諸問題に的確に対応できる高度な能力を備えた教員等の人材を養成することを目指した内容となっている。
理工学研究科	新しい境界領域と学際領域に対応すべく、幅広く柔軟に対応できる工学技術者や研究者を養成すること。及び自然科学の基礎を担う研究教育を広い視野で行い、深刻な環境問題に対応できる人材の養成を目指している。
保健学研究科	人間性豊かな、地域に貢献する、研究心旺盛な、国際的視野に立つ医学・医療専門職者を育成することを目指した内容となっている。
農学研究科	農産物や食品、森林等の様々な農業等の分野において、高度専門職業人、研究者等に従事できる人材を養成することを目指した内容となっている。

水産学研究科	水産資源の持続的生産とその合理的利用、水圏環境の保全分野で、高度な教育を受け、熱帯・亜熱帯水域を対象とする諸活動で世界をリードする文化の創出に参画し、地域社会と国際社会に貢献できる高度な専門的技術を身に付けた人材を社会に輩出することを目指した内容となっている。
連合農学研究科	自然破壊による地球規模での環境の悪化と資源の枯渇などに対応するために、安全な食料と生活を支える資源の確保、あるいは健康な生活と生物が共存できる環境の維持などに関して、農林水産学として、高度な研究・分析能力を備え、これらの問題を解決できるリーダーや牽引車となる人材を養成することを目指している。
医歯学総合研究科	学生の研究能力が国際的な評価に耐える研究を計画・実施できるレベルに到達することを目的とし、併せて、高度の研究能力を持つとともに、共同研究をコーディネートできる協調性と広い視野を持ち、研究の社会的な意味を常に問い続け、医の倫理観を備えた生命医療領域の研究者と教育者の育成を目指した内容となっている。

#### 【根拠資料欄】

- 別添資料5 - 4 - - 1 修学の手引き（部局例示：大学院人文社会科学研究科）  
 別添資料5 - 4 - - 2 平成19年度時間割（部局例示：大学院人文社会科学研究科）  
 別添資料5 - 4 - - 3 シラバス（部局例示：大学院人文社会科学研究科 法学専攻）

#### 【分析結果とその根拠理由】

研究科の教育課程の編成は、授与する学位や育成しようとする人材像に基づき、教育目的や特色を踏まえた授業科目（必修・選択）、演習、実習等が配置され、学生の希望する研究と学術内容に対応して、自主的選択も可能となっている。

以上から、教育の目的や授与される学位に照らして教育課程が体系的に編成され、目的とする学問分野や職業分野に応えている。

観点5 - 4 - : 授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっているか。

#### 【観点到係る状況】

大学院教育では、社会の様々な問題や要請に対応できる人材を養成できるように、多分野にわたる専門性の高い教育水準の維持に努めている。個々の研究科の編成方針を具体化させるためにそれぞれの研究科では様々な工夫を行っている（資料5 - 4 - - A）。

## 資料5 - 4 - - A 教育課程の編成主旨に沿った授業科目（例示）

科目区分名	授業科目名	授業科目の概要等
研究科共通科目	教育哲学特論 (教育学研究科)	最近の教育理論研究の中から主要なものを取り上げ文献の購読及び討論を通じて理解を深める。
博士前期課程 共通 必修科目	物理情報科学セミナー 物理科学特別研究 生命化学特別研究 地球環境科学特別研究 (理工学研究科)	指導教官との話し合いにより定めた研究テーマにもとづいて研究、演習、実験を行い、その結果をまとめ、修士論文を作成する。この授業を通じて、研究の進め方、まとめ方を学ぶ。
博士前期課程 共通 選択科目	理学論 (理工学研究科)	この講義は分野横断的なもので、数学、物理学、化学、地学、生物学のいずれかを専門とする教員十数名がガリレー方式で行う。また、学生と教員で共に講義内容について議論し、理学とは何かを模索する。
機械工学専攻 必修科目	機械工学ゼミナール (理工学研究科)	機械工学分野に関連する事項で、各学生が研究を進めるのに必要な文献を、ゼミナール形式で講読する。また修士論文の経過報告も行い、指導教員や他の学生との討論を通して、研究者・技術者としての素養、探究心、専門的な知識を高め、広い知見を得ることが本ゼミナールの目的である。
生物生産学専攻 家畜生産学科目	家畜繁殖学特論 (農学研究科)	家畜繁殖及び生殖工学関連分野の最新原著を題材にして、その現状、課題及び将来展望を講義。
フィールド教育	フィールドワーク特別実習 (水産学研究科)	本実習では測位、測深の自動化を通してモバイルコンピュータを中心とした電子機器の技術を身に付けること、及び沿岸、洋上、小型船舶上での安全に対する知識と技術を体得することを目的とする。鹿兒島湾内及び長島の小型船を利用したダイビング及びサポート技術と測位測深の機械観測実習を行っている。
共通セミナー（特別）	蛋白質の構造と機能発現 - 好塩基性酵素を中心に (連合農学研究科)	蛋白質の構造と機能発現に関する話題を解説するが、特に好塩性蛋白質の話題が中心となる。生物の中にはヒトが生きていけないような過酷な環境の中で生きている微生物があり、極限環境微生物と呼ばれている。その一つ好塩菌は、高濃度塩存在下を好む微生物で、塩に適応した蛋白質を持っている。時間が許せば、他の極限環境微生物蛋白質についても言及する。

## 【根拠資料欄】

なし

## 【分析結果とその根拠理由】

授業内容は、各研究科の教育課程の編成の趣旨に沿って設定され、特色に応じ、講義、実験、演習等が組み込まれている。

以上から、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に添ったものとなっている。

観点5 - 4 - : 授業の内容が、全体として教育の目的を達成するための基礎となる研究の成果を反映したものとなっているか。

【観点に係る状況】

個々の研究科では、専攻分野の教育目的を達成するために適切に教員を配置し、個々の教員は自身の研究に則した授業を行っている（資料5 - 4 - - A、資料5 - 4 - - B）。

資料5 - 4 - - A 授業科目を担う教員の研究活動の反映例（例示）

授業科目名	学部・学科・教員名	研究活動及び主な研究業績等
健康運動学特論	教育学研究科 健康教育専修 飯干 明	（代表的な研究活動） スポーツにおける障害予防に関する研究 （主要論文名） ・肉離れ経験者と非経験者のスタートダッシュフォーム ・鹿児島県におけるスポーツ少年団の活動実態調査と活動プログラムに関する研究 第2報競技レベルと活動状況の相違及び障害発生に関連する要因
情報システム信頼性特論	理工学研究科 数理情報科学科 新森 修一	（代表的な研究活動） コンピュータシステムや情報ネットワークの「信頼性」に関する研究 （主要論文名） T.koide, S. Shinmori and H. Ishii, An Efficient Complete Enumeration Method for Network Design Problems and its Applications, Journal of the Operations Research Society of Japan 45(3), 299-316 (2002).
生体環境リスク基礎特論	理工学研究科 生体工学専攻 高梨 啓和	（代表的な研究活動） 環境工学に関する研究 （主要論文名） 1 . Hirokazu Takanashi, Tsunenori Nakajima, Akira Ohki, Shuzo Kokubu, Makoto Hirata and Tadashi Hano, Mutagen formation potential of river water and removal of mutagen precursor by activated carbon, ENVIRONMENTAL HEALTH RISK 2007, in press. 2 . 高梨啓和、小坂瑞樹、加治屋 仁、大山謙二、中島常憲、大木 章、農薬とそれらの生分解代謝物の異原性物質生成能 (MFP)、用水と廃水、48(2)、149-154、2006.
分子腫瘍学	医歯学総合研究科 先進治療科学専攻	（代表的な研究活動） がん化学療法に関する研究

	秋山 伸一	<p>薬剤耐性の機構と耐性克服 (主要論文名) Nakajima Y, Haraguchi M, Furukawa T, Yamamoto M, Nakanishi H, Tatematsu M, Akiyama S. 2-Deoxy-L-ribose inhibits the invasion of thymidine phosphorylase-overexpressing tumors by suppressing matrix metalloproteinase-9 Int J Cancer. 2006 Oct 1; 119(7):1710-6. PMID:16646076[PubMed - in process]</p>
認知リハビリテーション学特論	<p>保健学科 基礎作業療法学専攻 浜田 博文</p>	<p>(代表的な研究活動) ・脳卒中における高次脳機能障害 ・脳損傷の認知リハビリテーション ・脳卒中の早期リハビリテーション ・老年期痴呆とそのリハビリテーション ・早期痴呆とその認知リハビリテーション (主要論文名) ・第5回全国早期痴呆研究会講演録[全国早期痴呆研究会・平成16年1月] ・神経心理学評価ハンドブック[西村書店・16年8月]注意障害を伴う脳血管性痴呆患者に対する認知リハビリテーション - 症例報告 -</p>
水質保全学特論 (化学物質による環境汚染とその生態影響についての高度な知識を習得する。また、法律的な化学物質管理法や化学物質の生態毒性評価法についても高度な知識を習得する。)	<p>水産学研究科 小山 次朗</p>	<p>(代表的な研究活動) 化学物質による海洋環境汚染とその生態影響に関する研究 (主要論文名) ・Koyama J. et al. (2004): Polycyclic aromatic hydrocarbon contamination and recovery characteristics in some organisms after the Nanhodoka oil spill., Marine Pollution Bulletin, 49, pp.1054-1061 ・Koyama J. et al. (2004): Toxicity of heavy fuel oil, dispersant, and oil-dispersant mixtures to marine fish, Pagrus major., Fisheries Science, 70, pp.587-594.</p>
応用分子微生物学特論 (蛋白質の構造と機能発現 - 好塩基性酵素を中心に)	<p>大学院連合農学研究科 生物資源利用科学専攻 応用生物化学連合講座 徳永 正雄(鹿農)</p>	<p>(代表的な研究活動) 極限環境で生育できる極限環境微生物である高度好塩菌や中度好塩菌が生産する酵素の性質、産業的利用の検討。 (主要論文名) 1. NaCl-activated nucleoside diphosphate kinase from extremely halophilic archaeon, Halobacterium salinarum, maintains native conformation without salt. FEBS Letters 493, 134-138 (2001)</p>

		<p>2. Highly efficient renaturation of <math>\alpha</math>-lactamase isolated from moderately halophilic bacteria.</p> <p>FEBS Lett.558, 7-12 (2004)</p>
<p>食料環境システム学特論1 (有機系廃棄物処理技術の基礎)</p>	<p>大学院連合農学研究科 生物環境保全科学専攻 生物生産工学連合講座 守田 和夫(鹿農)</p>	<p>(代表的な研究活動)</p> <p>エネルギー化・資源化を目指した有機系廃棄物の地域循環型完全リサイクルシステムの構築に関する研究</p> <p>(主要論文名)</p> <p>K. Morita, F. Tanaka, T. Umetsu, A. Issa, I. R. Mjema, Y. Origuchi and T. Motoyama : Anaerobic methane fermentation on shochu wastewater treatment. ASAE paper No. 036226 (2003)</p> <p>K. Morita : Organic waste treatment by electrolysis in case of shochu. Proceedongs of IWAMIPNDS, 253-262 (2002)</p> <p>K. Morita, F. Tanaka, M. Nishida and S. Shinto : Food processing organic waste treatment by electrolysis. ASAE paper No. 026134 (2002)</p> <p>K. Morita, F. Tanaka, M. Nishida and S. Shinto : Basic study of electrolyzed oxidizing water for microbial inactivation. ASAE paper No. 023050 (2002)</p>

資料5 - 4 - - B

授業科目概要（シラバス）

例：医歯学総合研究科

( <http://www.kufm.kagoshima-u.ac.jp/~meddent/doctor/course/syllabus.html> )



研究者総覧

( <http://krl.cc.kagoshima-u.ac.jp:591/kurl/start.html> )



( 出典 鹿児島大学ウェブサイト )

【根拠資料欄】

なし

【分析結果とその根拠理由】

各研究科、専攻における授業内容は、教育の目的を達成するための基礎となる研究活動の成果が十分に反映されている。

観点 5 - 4 - : 単位の実質化への配慮がなされているか。

【観点に係る状況】

大学院学則(資料 5 - 4 - - A)、各研究科規則(別添資料 5 - 4 - - 1)では、単位の授与、進学、修了要件等を明文化している。個々の授業科目は、シラバス(前述資料 5 - 4 - - B)に、授業の目標、授業内容、達成目標などを記載し、自主学習を促し、オフィスアワーや連絡先を明記するなど、いつでも授業担当教員の個人指導を受けられる体制をとっている。

施設面では学生の学修・研究のためのスペースを確保し、十分な学習及び研究を行う環境を整えている。

資料 5 - 4 - - A

鹿兒島大学大学院学則(抜粋)

([http://hg.kuas.kagoshima-u.ac.jp/reiki\\_int/reiki\\_honbun/ax89002271.html](http://hg.kuas.kagoshima-u.ac.jp/reiki_int/reiki_honbun/ax89002271.html))

(単位の授与)

第 23 条 履修した各授業科目の成績評価は、試験又は研究報告等によって行い、これに合格した者には所定の単位を与える。

2 第 21 条の規定により修得した単位は、10 単位を超えない範囲で認定する。ただし、司法政策研究科においては、30 単位を超えない範囲で認定する。

(進学)

第 32 条 本学大学院の修士課程又は博士前期課程を修了し、引き続き博士課程又は博士後期課程若しくは連合農学研究科に進学を志願する者については、当該研究科の定めるところにより、選考の上、研究科長が進学を許可する。

(課程の修了要件)

第 39 条 修士課程又は博士前期課程の修了の要件は、修士課程又は博士前期課程に 2 年以上在学し、30 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該修士課程又は博士前期課程の目的に応じ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、1 年以上在学すれば足りるものとする。

2 医歯学総合研究科博士課程の修了の要件は、大学院に 4 年以上在学し、30 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、大学院に 3 年以上在学すれば足りるものとする。

3 博士後期課程の修了の要件は、博士後期課程に 3 年(法科大学院の課程を修了した者にあつては、2 年)以上在学し、人文社会科学研究科にあつては 14 単位以上を、保健学研究科及び理工学研究科にあつては 12 単位(ナノ構造先端材料工学専攻にあつては 14 単位)以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、次に掲げる年数以上在学すれば足りるものとする。

(1) 博士前期課程又は修士課程に 2 年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における 2 年の在学期間を含み 3 年以上

(2) 博士前期課程又は修士課程において優れた業績を上げ、2 年未満の在学期間で修了した者にあつては、当該課程における在学期間を含み 3 年以上

- (3) 修士の学位若しくは専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者又は専門職学位課程を修了した者が入学した場合にあっては、1年以上
- 4 法科大学院の課程の修了の要件は、法科大学院の課程に3年以上在学し、96単位以上を修得し、最終試験に合格することとする。
- 5 臨床心理学研究科の専門職学位課程の修了の要件は、臨床心理学研究科の課程に2年以上在学し、50単位以上を修得することとする。
- 6 前項の場合において、第24条第2項の規定により当該課程に入学する前に大学院において修得した単位を当該課程において修得したものとみなす場合であって当該単位の修得により当該課程の教育課程の一部を履修したと認めるときは、当該単位数、その修得に要した期間その他を勘案して当該課程の標準修業年限の2分の1を超えない範囲で当該課程が定める期間在学したものとみなすことができる。ただし、この場合においても、当該課程に少なくとも1年以上在学するものとする。
- 7 連合農学研究科の修了の要件は、博士課程に3年(法科大学院の課程を修了した者にあつては、2年)以上在学し、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、次に掲げる年数以上在学すれば足りるものとする。
- (1) 修士課程に2年以上在学し、当該修士課程を修了した者にあつては、当該修士課程における2年の在学期間を含み3年以上
- (2) 修士課程において優れた業績を上げ、2年未満の在学期間で修了した者にあつては、当該修士課程における在学期間を含み3年以上
- (3) 修士の学位若しくは専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者又は専門職学位課程を修了した者が入学した場合にあっては、1年以上

(出典 鹿兒島大学大学院学則)

#### 【根拠資料欄】

別添資料5 - 4 - - 1 履修方法、修了要件について(各研究科規則抜粋)

#### 【分析結果とその根拠理由】

大学院教育では、研究テーマに沿った個別指導が主となるが、単位の実質化を図る手段として、自主的学習、時間外学習に対する支援については講座・研究室単位で、日常的に教員への質問や、学生間での議論ができる体制をとっている。また、各学生には学習・研究のためのスペースが与えられ、学習及び研究の環境は整っている。以上から単位の实質化への配慮は行われている。

観点5 - 4 - : 夜間において授業を実施している課程(夜間大学院や教育方法の特例)を有している場合には、その課程に在籍する学生に配慮した適切な時間割の設定等がなされているか。

#### 【観点に係る状況】

社会人学生等で夜間に授業の開講を希望する者や、教育上特別の必要があると認められる者に、個別に対応策を考え、夜間、その他特定の時間、時期において授業又は研究指導を集中的に行う等の対策を講じている(資

料5 - 4 - - A、前述別添資料5 - 4 - - 2 )。

資料5 - 4 - - A

鹿児島大学大学院学則（抜粋）

([http://hg.kuas.kagoshima-u.ac.jp/reiki\\_int/reiki\\_honbun/ax89002271.html](http://hg.kuas.kagoshima-u.ac.jp/reiki_int/reiki_honbun/ax89002271.html))

(教育方法の特例)

第20条 大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

(出典 鹿児島大学大学院学則)

【根拠資料欄】

なし

【分析結果とその根拠理由】

指導教員のもと、実施期間、履修方法、授業等の実施時間帯等の履修計画を作成させ、社会人学生等が無理なく修了できるように十分に配慮した時間割の編成としている。以上から、夜間授業等を必要とする学生に配慮した時間割の設定がなされている。

5 - 5 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。

観点5 - 5 - : 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。(例えば、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用等が考えられる。)

【観点に係る状況】

研究科の授業形態は、教育課程及び履修方法等に定められた単位基準に基づき進めている。具体的には、講義、セミナー、演習及び実験等を適切な方法で組合せて実施している。研究科により異なるが、ほとんどが少人数体制で実施しており、対話討論型の形式でプレゼンテーション能力の向上を図っている授業もある。また、情報機器を使用した実習や、体験を含めた野外調査、インターンシップ制度などを取り入れ、専攻ごとの専門性を考慮した指導体制も展開している。

このほか、他大学等の授業科目の履修や、研究指導を受けることも可能である(資料5 - 5 - - A)。なお、派遣型高度人材育成協同プランとして「食の安全マネージャー養成プログラム」(農学研究科)が17年度文部科学省委託事業に採択されている。

## 資料5 - 5 - - A 学習指導法の工夫がなされている授業等（例示）

特徴的な授業等	科目名（学部）
少人数授業	美術史特論（教育学研究科） 英米文学特論（教育学研究科） 入学定員は各専攻、11名～15名であるため、いずれの授業も少人数授業である。（理工学研究科） 資源利用科学特別演習（水産学研究科） 漁具工学特論（水産学研究科） 共通セミナー（特別）（連合農学研究科）
対話・討論型授業	発達心理学特論（教育学研究科） 英語科教育学特論演習（教育学研究科） 数情報科学セミナー、物理科学特別研究、生命化学特別研究、地球環境科学特別研究、物理科学論文講読、生命化学論文講読、地球環境科学論文講読、理学論（理系4専攻共通科目）行動進化学特論、古生物学特論、進化生物学特論、植物系統学特論、火山地質学特論（理工学研究科） 海外水産事情特論（水産学研究科）
フィールド型授業	健康運動学特論演習、体育教育学特論演習（教育学部：教育学研究科） 森林管理学特別演習、地域資源環境学特別演習（農学研究科） 国際水産技術協力特別実習、フィールドワーク特別実習（水産学研究科） 褐藻ホンダワラの生物学、桜島における松材線虫病の蔓延 など（連合農学研究科）
情報機器の活用	理学論（理系4専攻共通科目）、植物分子生理学特論、植物生態学特論（理工学研究科） 環境情報科学特別演習、環境情報処理学特論、航海情報学特論（水産学研究科）
研究科共通科目 「いのちを学ぶ」科目群	人権といのち、食といのち、病といのち（農学研究科）
ポスターセッション	情報交換セミナー（共通セミナー（一般）日程中に行う）（連合農学研究科）

## 【根拠資料欄】

なし

## 【分析結果とその根拠理由】

各研究科・専攻の教育目的に即して、講義、セミナー、演習、実験がバランスよく配置され、加えて少人数教育、対話・討論形式や情報機器を活用した実習等や体験を含めた野外調査等も取り入れている。

他大学等の授業科目の履修や研究指導を受けることができ、学生は研究テーマを中心に関連する授業科目を履修することが可能となっている。

以上から、教育目的に照らして、大学院課程全体として授業形態の組合せ・バランスは適切であり、教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされている。

観点5 - 5 - : 教育課程の編成の趣旨に沿って適切なシラバスが作成され、活用されているか。

【観点に係る状況】

シラバスや履修案内は、各研究科で冊子及びホームページに掲載し、周知するとともにオリエンテーション等で説明している。研究科によっては、「シラバス作成の手引き」（前述資料5 - 2 - - 1）を用いて、詳細なシラバスを提供するよう努力するとともに、授業評価アンケート結果等を参考として、シラバスに沿った授業の検証を行っている。

【根拠資料欄】

なし

【分析結果とその根拠理由】

シラバス（履修案内）等は、研究科ごとに作成して冊子及びホームページに掲載し、オリエンテーション時に説明している。不明な点は個別に教員に相談しながら履修内容等を決定していく体制を整えている。また、「シラバス作成の手引き」を作成し、詳細なシラバスを提供している研究科もある。以上から、教育課程の編成趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されている。

観点5 - 5 - : 通信教育を行う課程を置いている場合には、印刷教材等による授業（添削等による指導を含む。）、放送授業、面接授業（スクーリングを含む。）若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整備され、適切な指導が行われている。

【観点に係る状況】

該当なし

【根拠資料欄】

【分析結果とその根拠理由】

5 - 6 研究指導が大学院教育の目的に照らして適切に行われていること。

観点5 - 6 - : 教育課程の趣旨に沿った研究指導が行われているか。

【観点に係る状況】

各研究科・専攻では、輩出しようとする人材像に応じ、教育課程の編成及び研究指導が行われている。各研究科での教育課程の趣旨（前述別添資料1 - 1 - - 1）ごとに、各研究科委員会では学生の研究テーマ等について、教育課程の趣旨に沿ったものであるかを承認し、適切な指導を行うようにしている。

論文審査では、審査の過程で中間審査会を設けるなど、必要に応じて研究の達成状況を確認し、適切な指導体制を整えている（別添資料5 - 6 - - 1、別添資料5 - 6 - - 2）。

## 【根拠資料欄】

- 別添資料5 - 6 - - 1 論文審査の流れ（部局例示：連合農学研究科）  
 別添資料5 - 6 - - 2 研究指導教員一覧（部局例示：理工学研究科博士前期課程抜粋）

## 【分析結果とその根拠理由】

各研究科の修了判定は、各専攻で審議された後、研究科委員会で決定されるシステムとなっている。研究指導の内容は、論文審査の過程において中間審査会を実施するなど、様々なチェック体制が導入されている。以上から、教育課程の趣旨に沿った研究指導が研究科の基本理念に照らして適切に行われている。

- 観点5 - 6 - : 研究指導に対する適切な取組（例えば、複数教員による指導体制、研究テーマ決定に対する適切な指導、TA・RA（リサーチ・アシスタント）としての活動を通じた能力の育成、教育的機能の訓練等が考えられる。）が行われているか。

## 【観点に係る状況】

多くの研究科で、主指導教員及び副指導教員のように複数指導体制（前述別添資料5 - 6 - - 2）を取っている。例えば、理工学研究科では「学問の高度化と多様化に幅広く柔軟に対応し、次世代を開拓する技術者・研究者、また、人間生活を取り巻く自然について総合的な知識を持ち、今日のさまざまな課題にも柔軟に対応できる人材の養成」を目指すという研究科の基本理念に基づき、大学院生1名に対し、専門分野の主指導教員1名、副指導教員1名以上を配置し、学生の授業科目の履修及び学位論文の作成等に対する指導を行っている。

優秀な学生には、TAとして経済的な援助を行うと同時に、教育補助業務（実験、実習、演習等）に従事させ、指導者としてのトレーニングを行っている。また、研究遂行能力の育成及び経済的支援を図ることを目的としてRAとして採用している。18年度後期から「TA・RA勤務マニュアル」を研究科ごとに作成（別添資料5 - 6 - - 1）し、学生の教育能力の指導に活用している（別添資料5 - 6 - - 2）。

## 【根拠資料欄】

- 別添資料5 - 6 - - 1 TA・RAマニュアル（部局例示：大学院人文社会科学研究科）  
 別添資料5 - 6 - - 2 TA・RA勤務実績（平成18年）

## 【分析結果とその根拠理由】

多くの研究科で複数指導教員体制のもと、研究テーマの選定から論文の執筆まで、主・副指導教員の十分な指導を受けることが可能である。複数指導教員体制をとっていない研究科でも、日常的に他の教員と意見交換ができる環境が整備されている。また、「TA・RA勤務マニュアル」を作成して、学生の能力育成、教育的機能訓練等が行われている。以上から、研究指導に対する適切な取組及びTA・RAとしての活動を通して、学生の能力育成及び教育的機能訓練等が適切に実施されている。

観点5 - 6 - : 学位論文に係る指導体制が整備され、機能しているか。

【観点に係る状況】

学位論文に係る指導体制(資料5 - 6 - - A、資料5 - 6 - - B、)は、主指導教員を中心に複数指導体制をとっている。最終審査までには、中間審査等を行い個々の学生の研究の進捗状況(前述別添資料5 - 6 - - 1)を確認し指導している。

資料5 - 6 - - A

鹿兒島大学大学院学則(抜粋)

([http://hg.kuas.kagoshima-u.ac.jp/reiki\\_int/reiki\\_honbun/ax89002271.html](http://hg.kuas.kagoshima-u.ac.jp/reiki_int/reiki_honbun/ax89002271.html))

(教員組織)

- 第11条 大学院(司法政策研究科、臨床心理学研究科及び連合農学研究科を除く。)の授業並びに学位論文の作成等に対する指導(以下「研究指導」という。)を担当する教員は、本学の教授のうちから第4項の資格基準に基づいて選定する。ただし、必要があるときは、准教授、講師又は助教をこれに充てることができる。
- 2 司法政策研究科及び臨床心理学研究科の授業を担当する教員は、本学の教授のうちから第4項の資格基準に基づいて選定する。ただし、必要があるときは、准教授、講師又は助教をこれに充てることができる。
- 3 連合農学研究科における研究指導を担当する教員は、当該研究科の専任の教授並びに本学の農学部・水産学部、佐賀大学の農学部、琉球大学の農学部及びこれに関連を有する研究施設に所属する教授であって次項の資格基準に基づいて選定する。ただし、必要があるときは、准教授、講師又は助教をこれに充てることができる。

(出典 鹿兒島大学大学院学則)

資料5 - 6 - - B 研究科例示

鹿兒島大学大学院理工学研究科規則

([http://hg.kuas.kagoshima-u.ac.jp/reiki\\_int/reiki\\_honbun/ax89002361.html](http://hg.kuas.kagoshima-u.ac.jp/reiki_int/reiki_honbun/ax89002361.html))

(指導教員)

- 第4条 学生の授業科目の履修及び学位論文の作成等に対する指導(以下「研究指導」という。)を行うため、学生ごとに指導教員を置く。
- 2 指導教員は、博士前期課程の学生にあつては主指導教員1名及び副指導教員1名以上、博士後期課程の学生にあつては主指導教員1名及び副指導教員2名以上を置くものとする。
- 3 博士前期課程及び博士後期課程における主指導教員は、研究指導を担当する資格を有する教授又は准教授とする。
- 4 主指導教員及び副指導教員は、鹿兒島大学大学院理工学研究科委員会(以下「研究科委員会」という。)において定める。

(出典 鹿兒島大学大学院理工学研究科規則)

【根拠資料欄】

なし

## 【分析結果とその根拠理由】

各研究科（専攻）では、主・副指導教員による複数指導体制のもと、適切な指導が行われている。また、論文指導では中間審査会を行い、個々の学生の研究の進捗具合を確認する仕組み・体制を整えている。

以上から、学位論文審査に係る適切な指導体制が整備され、機能している。

5 - 7 成績評価や単位認定、修了認定が適切であり、有効なものとなっていること。

観点5 - 7 - : 教育の目的に応じた成績評価基準や修了認定基準が組織として策定され、学生に周知されているか。

## 【観点に係る状況】

成績評価基準及び修了認定基準（前述資料5 - 4 - - A）は、研究科（専攻）ごとに規則等に定め、履修要項、ホームページ、入学時オリエンテーション等で周知し、不明な点等には学生（教務）係及び指導教員等が個別に対応している。

## 【根拠資料欄】

なし

## 【分析結果とその根拠理由】

成績評価基準や修了認定基準は、研究科（専攻）単位で作成し、履修要項に明示し、ホームページでも公開している。入学時オリエンテーション等での説明及び学生係・指導教員が個別に対応することで、行き届いた指導を行っている。以上から、成績評価基準及び修了要件等が組織として策定され、学生への周知も適切に行われている。

観点5 - 7 - : 成績評価基準や修了認定基準に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。

## 【観点に係る状況】

成績評価に関しては、学則及び研究科規則等で定められた成績評価基準に従い評価され、単位が認定されている。（前述資料5 - 4 - - A）

学位論文審査方法も各研究科規則等に明示し、複数審査体制を取りながら公正に実施している。

修了認定も、必要な単位の認定及び論文審査等を適切に行ったうえで認定している。

## 【根拠資料欄】

なし

## 【分析結果とその根拠理由】

成績評価及び論文審査は、明確な基準及び公正に実施できる体制をとり、修了認定は、研究科委員会において、必要な単位の認定と論文審査の結果を総合的に判断し、適切に実施している。

以上から、成績評価基準や修了認定基準に従って、成績評価、単位認定、修了認定を適切に実施している。

観点5 - 7 - : 学位論文に係る適切な審査体制が整備され、機能しているか。

## 【観点到係る状況】

各研究科では、論文審査を複数で行う体制をとり、公正な論文審査が実施できるよう、研究科委員会の審議を経て審査委員会を設け、必要に応じて他大学等の教授等を審査委員に加えることも可能としている。

最終審査までに、発表会形式による中間審査等を行い、論文の進捗状況について事前にチェックする仕組みを取り入れ、審査委員会の報告に基づき研究科委員会等(別添資料5 - 7 - - 1)で合否判定を行っている。

## 【根拠資料欄】

別添資料5 - 7 - - 1 論文審査関係日程表(部局例示:教育学研究科、修士課程)

## 【分析結果とその根拠理由】

審査委員会が、提出された学位論文について厳正な審査を行った後、研究科委員会で合否を決定している。審査委員会のメンバーは、公正な審査を実施するために、学外からも加えることを可能としている。

以上から、学位審査に係る適切な審査体制が整備され、機能している。

観点5 - 7 - : 成績評価等の正確さを担保するための措置が講じられているか。

## 【観点到係る状況】

成績評価等の正確性の担保として、研究指導の過程において、指導教員と学生が日常的に、成績評価を含めて意見交換を行うようになっている。18年度後期から申し立て制度を整備し、発表後一週間を「成績質疑申請期間」とし、「成績質疑申立書」並びに「成績質疑対応報告書」(別添資料5 - 7 - - 1)を作成し書面で対応するようにした。

## 【根拠資料欄】

別添資料5 - 7 - - 1 成績質疑申立書・成績質疑対応報告書(部局例示:理工学研究科)

## 【分析結果とその根拠理由】

成績評価に対する質疑に対して、18年度後期からは、申し立て制度を全学的に整備した。これにより、学生は書面で「成績質疑申立書」を作成し、教員はそれに対して「成績質疑対応報告書」を作成して対応結果を明らかにする方法を導入した。以上から、成績評価等の正確性を担保するための措置は講じられている。

## &lt; 専門職大学院課程 &gt;

5 - 8 教育課程が教育の目的に照らして体系的に編成されており、その内容、水準、授与される学位名において適切であること。

観点 5 - 8 - : 教育の目的や授与される学位に照らして、教育課程が体系的に編成されているか。

## 【観点に係る状況】

大学院学則に専門職大学院の目的（資料 5 - 8 - - A）、学位規則に学位の要件（資料 5 - 8 - - B）を明文化している。

司法政策研究科（資料 5 - 8 - - C）では必要な必修科目、選択科目（別添資料 5 - 8 - - 1、別添資料 5 - 8 - - 2、別添資料 5 - 8 - - 3）を用意し、市民法務系、企業法務系及び地域法政策系という3つのモデルによって、地域が求める法曹像を想定した教育を施すことにより、司法政策に貢献できる活動的人材を養成するとともに、教育活動を通じて地域の司法基盤への直接貢献を目指すよう編成されている。

また、19年4月から開設した、臨床心理学研究科（資料 5 - 8 - - D）では、教育、福祉、医療、司法・矯正のそれぞれを網羅できるような編成となっており、個別支援、集団支援、地域支援、危機介入支援のできる人材の輩出及び、地域文化を視野に入れた心理臨床ができる人材の輩出を目的として編成されている。

## 資料 5 - 8 - - A

鹿児島大学大学院学則（抜粋）

([http://hg.kuas.kagoshima-u.ac.jp/reiki\\_int/reiki\\_honbun/ax89002271.html](http://hg.kuas.kagoshima-u.ac.jp/reiki_int/reiki_honbun/ax89002271.html))

(大学院の目的)

第2条 大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与することを目的とする。

2 専門職大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目的とする。

3 大学院は、研究科又は専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を、各研究科の規則において定める。

(専門職学位課程)

第9条 司法政策研究科(法科大学院)の課程は、法曹としての深い学識及び卓越した能力を培うものとする。

2 臨床心理学研究科の課程は、臨床心理士としての個別支援、集団支援、地域支援及び危機介入支援等の高い臨床心理実践能力を培うものとする。

(出典 鹿児島大学大学院学則)

## 資料5 - 8 - - B

鹿兒島大学学位規則（抜粋）

([http://hg.kuas.kagoshima-u.ac.jp/reiki\\_int/reiki\\_honbun/ax89001101.html](http://hg.kuas.kagoshima-u.ac.jp/reiki_int/reiki_honbun/ax89001101.html))

(専門職学位授与の要件)

第6条 臨床心理修士(専門職)の学位は、本学の大学院専門職学位課程(臨床心理学研究科の課程)を修了した者に授与する。

2 法務博士(専門職)の学位は、本学の大学院専門職学位課程(司法政策研究科の課程)を修了した者に授与する。

(出典 鹿兒島大学学位規則)

## 資料5 - 8 - - C

鹿兒島大学大学院司法政策研究科規則（抜粋）

([http://hg.kuas.kagoshima-u.ac.jp/reiki\\_int/reiki\\_honbun/ax89002421.html](http://hg.kuas.kagoshima-u.ac.jp/reiki_int/reiki_honbun/ax89002421.html))

(授業科目、単位及び履修方法)

第3条 本研究科の専攻における授業科目及び単位数は、別表のとおりとする。

2 前項に規定するもののほか、臨時に開講する授業科目は、その都度、本研究科教授会(以下「教授会」という。)においてこれを定める。

3 授業科目、授業時間数、単位及び授業担当教員の氏名は、各学年又は各学期の始めに公示する。

4 大学院学則第47条で準用される鹿兒島大学学則第38条第3項及び第4項の規定により、講義、演習、実験、実習若しくはこれらの併用により行う授業は、文部科学大臣が定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室以外の場所で履修させることができる。

(履修科目の登録)

第5条 学生は、各学年又は各学期の始めに、履修しようとする科目を所定の期日までに研究科長に届け出なければならない。

2 前項の履修科目の登録は、各学年で36単位を超えることはできない。

(出典 鹿兒島大学大学院司法政策研究科規則)

## 資料5 - 8 - - D

鹿兒島大学大学院臨床心理学研究科規則（抜粋）

([http://hg.kuas.kagoshima-u.ac.jp/reiki\\_int/reiki\\_honbun/ax89005551.html](http://hg.kuas.kagoshima-u.ac.jp/reiki_int/reiki_honbun/ax89005551.html))

(授業科目、単位及び履修方法)

第3条 本研究科の専攻における授業科目及び単位数は、別表のとおりとする。

2 前項に規定するもののほか、臨時に開講する授業科目は、その都度、本研究科教授会(以下「教授会」という。)においてこれを定める。

3 授業科目、授業時間数、単位及び授業担当教員の氏名は、各学年又は各学期の始めに公示する。

(履修科目の登録)

第4条 学生は、各学年又は各学期の始めに、履修しようとする科目を所定の期日までに研究科長に届け出なければならない。

2 前項の履修科目の登録は、各学年36単位を超えることはできない。

(出典 鹿兒島大学大学院臨床心理学研究科規則)

## 【根拠資料欄】

別添資料5 - 8 - - 1	授業時間割（専門職大学院課程）
別添資料5 - 8 - - 2	シラバス（専門職大学院課程）
別添資料5 - 8 - - 3	修学の手引き（専門職大学院課程）

## 【分析結果とその根拠理由】

司法政策研究科、臨床心理学研究科とも、それぞれの学問の基本領域を網羅し、加えて地域文化・特性を踏まえた実践的な内容となっており、教育課程は体系的に編成されている。

観点5 - 8 - : 授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっているか。

## 【観点に係る状況】

司法政策研究科の授業内容は、教育課程の編成趣旨に沿った形となっている(前述別添資料5 - 8 - - 2)。特色として、本来、法曹が備えるべき「学識」を重視した授業が展開されている。すなわち、単に体系的な知識を習得するだけではなく、当事者の立場に立ち、社会的・実践的、さらに人間的視点から利用できる形で知識を修得する。法的知識の量の有無を問題にするのではなく、問題解決にあたっての視点や姿勢、判断基準の置き方、論理的な思考のプロセスを経た上での具体的な解決策、さらに具体的事案にとっての妥当性、そして当事者に対する説得力も身につけるようになっている。

臨床心理学研究科では、社会のニーズに即応できる人材を養成するために、実習を強化している。まず、国際水準をキャッチアップした実習時間やスーパービジョン体制を整備し、授業として修了単位に組み入れている。この実習体験の基盤となるべく、教育研究教員と実務家教員がコラボレートした演習を中核とする講義・演習・実習が三位一体となった教育課程を組み、理論に根拠いた実践的教育を行っている。とくに実習では心理臨床相談室を中心とする学内実習に加え、教育、福祉、医療、司法・矯正領域を強化し、多様な領域をカバーできる内容を提供している。さらに、地域文化を視野に入れた心理支援の基礎となる科目を選択必修に配置している。このように理論と実践の架け橋となる授業を提供するために、従来の教育研究教員に加え、経験豊富な実務家教員を配置し、有機的に共同した授業を展開している。(資料5 - 8 - - A)

## 資料5 - 8 - - A 教育課程の編成主旨に沿った授業科目（例示）

研究科名	授業科目名	授業科目の概要等
司法政策研究科	法情報論	実務基礎科目と位置づけられ、1年次の必修科目。インターネットを利用したTV会議システムにより九州大学LSと結んで実施。法情報リテラシーを修得し、IT時代の法実務能力という先端的な法曹としての基礎を確立することが目的。
司法政策研究科	リーガルクリニックA	2年次必修の実務基礎科目。屋久島などの典型的な司法過疎地で一般住民から法律相談を受ける形での実習。離島という究極の司法過疎地域の実情等を勘案した法的サービスの在り様を実体験

		するプログラム。
臨床心理学研究科	臨床心理学原論	臨床心理学の全体像をより実践的に広く理解できることを目標とする。そのために臨床心理学の歴史を踏まえ、その専門性、基本的論点、心理面接の構造や面接経過、心理アセスメントの原則を学ぶとともに、代表的な心理療法論を通して心理面接の特質と心理面接の進め方の特徴、及び集団心理療法をはじめとしたグループアプローチ、さらには地域と連携するためのコンサルテーションの方法を、実際の事例を紹介しながら講義を行う。
臨床心理学研究科	臨床心理査定演習	心理アセスメントは観察法、面接法及び心理検査法によるアセスメントがある。本演習では、まず、概論として臨床心理学における心理アセスメントの位置づけや意義、導入する際の心構えについて学習し、それぞれの方法について学ぶ。その後、具体的な事例を用いて、代表的な心理検査法の実施法や解釈法を学ぶ。高齢者用精神機能検査、投射法、知能検査法等の理論などについて、その施行法から解釈について学ぶ。とくに投射法検査は、専門家によるテスト体験を通して体験的に学ぶ。

## 【根拠資料欄】

なし

## 【分析結果とその根拠理由】

司法政策研究科では、情報リテラシーを踏まえた螺旋状の繰り返し学習による高度化を図る教育方法とカリキュラム編成、教育研究教員と実務家教員の共働を組み込んだ理論と実務の架橋の工夫、教員組織によるきめの細かい履修指導の体制等によって、学生個々人の能力を最大限に引き出せるよう編成趣旨に沿って実施されている。

臨床心理学研究科では、編成趣旨に基づき、講義は、演習の基盤となる理論を提供し、演習は、実習の基盤となる体験的学習を提供し、実習による体験を深化・内在化させ、同時に講義で提供された理論と体験を照合しており、これらが三位一体となって展開されている。

以上から、編成趣旨に沿った授業内容を実践している。

観点5 - 8 - : 授業の内容が、全体として教育の目的を達成するための基礎となる研究の成果を反映したのものとなっているか。

## 【観点に係る状況】

司法政策研究科(前述別添資料3 - 1 - - 1)では、教育研究教員は自己の専門分野における研究成果を授業内容に反映させ、実務家教員は実務経験を授業内容に投影させ、理論的な側面と実務的な側面の両面にわたる理解を深めるように配慮している。

臨床心理学研究科(前述別添資料3-1- -2)では、教育研究教員は、自らの研究分野や臨床実践の成果を講義や演習に反映させている。実務家教員は、豊富な実務経験に基づく臨床実践の知見を演習や実習に反映させている。演習では教育研究教員と実務家教員が連携して授業を展開し、理論と実践の架け橋となる内容となっている。地域特性や文化的風土を見立てた心理支援については、その分野の研究成果を有する教員による授業が展開されている。

【根拠資料欄】

なし

【分析結果とその根拠理由】

司法政策研究科では、先端的な研究成果や判例分析が授業内容として取り込まれ、実務経験を背景とした内容が授業に十分反映されており、臨床心理学研究科でも臨床経験豊富な実務家教員を配置し、自身の研究領域に基づく特色のある教育を実践している。以上から目的達成のための基礎となる研究成果は反映されている。

観点5-8- : 単位の実質化への配慮がなされているか。

【観点に係る状況】

司法政策研究科では、1学年で履修できる単位数の上限を36単位と設定している。1クラス5名のクラス担任制の下、学生個々人の状況に応じたきめ細かな履修指導等にあたっている(別添資料5-8- -1)。毎月2回のクラスワークの時間には、クラス担任の教員から履修指導等が行なわれている。さらに月1回、全体会も実施し、新司法試験等の情報提供も行っている。指導については事前、事後と細部にわたっており、加えてGPA制度も取り入れている。

臨床心理学研究科では、必修科目である実習を2年間で8単位認定する教育課程を編成している。また、実習体験を内在化させるスーパービジョンも演習科目に設定し、単位の実質化に取り組んでいる。また、1年間で履修できる単位数の上限(CAP制)を36単位と設定し、学生には希望する職能領域に応じた科目履修の選択決定を求めている。また、入学時、年度更新時に全学生対象にオリエンテーションを行った後、各専任教員がそれぞれ学生1~3名の担当となり、履修や学生生活についてきめ細やかな指導・助言を行っている。

【根拠資料欄】

別添資料5-8- -1 指導教員一覧(専門職大学院課程)

【分析結果とその根拠理由】

司法政策研究科、臨床心理学研究科ともに、履修単位数の上限を設けて授業時間以外に自主的な学習を促している。司法政策研究科はクラス担任制によって学生の疑問に応じて個別指導を行う機会も充実しており、臨床心理学研究科は、各専任教員が日常的に相談に応じ、希望する職能領域にあった少人数指導を実施している。

以上から単位の実質化は図られている。

観点5 - 8 - : 夜間において授業を実施している課程(夜間大学院や教育方法の特例)を有している場合には、その課程に在籍する学生に配慮した適切な時間割の設定等がなされているか。

【観点に係る状況】

臨床心理学研究科では、大学院設置基準第14条特例に基づき、授業時間帯(前述別添資料5 - 8 - - 1)は、6時限(18時10分~19時40分)、7時限(19時50分~21時20分)及び夏季・冬季休業期間とし、必要に応じて土日も実施することとしている。

【根拠資料欄】

なし

【分析結果とその根拠理由】

臨床心理学研究科では、社会人特別選抜枠による入学者も想定しており、そのための受け入れ体制として、授業時間帯を夜間にも設定するなどの学生のニーズに合わせた授業時間割を設定し、配慮をしている。

5 - 9 教育課程が当該職業分野における期待にこたえるものになっていること。

観点5 - 9 - : 教育課程や教育内容の水準が、当該職業分野の期待にこたえるものになっているか。

【観点に係る状況】

司法政策研究科、臨床心理学研究科ともに、授業内容一覧(シラバス)に詳細な教育内容を示している(前述別添資料5 - 8 - - 2)。

司法政策研究科では、法曹として必要な基礎知識・法的推論能力・論理展開能力・コミュニケーション能力等を十分習得できるカリキュラム構成となっている。また、司法過疎が常態である地域(本県)を素材に司法政策のあり方への感受性を養い、地域を担う法曹としての自覚を促す。そこを起点に、各人がめざす法曹像に結びつく地域の諸問題に関わる科目の履修へと展開させ、司法政策に貢献する活動的な人材の養成を実現する。

臨床心理学研究科では、臨床心理士として基本となる個別に心理支援ができるスキルに加え、集団に対応し、地域文化を理解し、危機介入ができるスキルを有した臨床心理士を養成する。これらの人材は、教育、福祉、医療、司法・矯正、産業等の領域で即戦力として求められている。修了生は、本県や南九州でのニーズとあわせて、地域文化を視野に入れた臨床心理実践能力を有する高度専門職業人として、全国各地域で活躍することが期待されている。

【根拠資料欄】

なし

## 【分析結果とその根拠理由】

司法政策研究科は、法曹に必要な能力の涵養及び、地域の状況も勘案し司法過疎を是正することや南九州司法ネットの核としての役割を果たすことを目的としている。臨床心理学研究科は、教育、福祉、医療、司法・矯正、産業等の領域で即戦力となる人材を輩出することを目的としている。

以上から当該職業分野の期待に十分応えるものと判断される。

5 - 10 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。

観点5 - 10 - : 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。(例えば、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、多様なメディアを高度に利用した授業、情報機器の活用等が考えられる。)

## 【観点到に係る状況】

司法政策研究科では、1学年30名での少人数教育が行われている。各授業科目は、予習を前提にした双方向の対話型・討論型となっている。予習等に際して、判例検索等は受講生各自がネットで行なう。1年次の必修科目「法情報論」は、九州大学とTV会議システム(資料5 - 10 - - A)を繋いで、鹿児島大学・九州大学間での討論等を交えた授業を行い、その他、九州大学や熊本大学との連携科目にあっても、ネット上での双方向授業が行なわれている(前述別添資料3 - 1 - - 1)。

臨床心理学研究科では、1学年15名の定員であり、学年ごとに必修科目を配置して少人数指導を実現している。選択必修科目群と選択基礎科目群は、履修上限(CAP制)により少人数授業が可能となっている。また、臨床心理士養成のために2年間の継続的、体系的な実務実習を提供する。具体的には、学内実習による一斉実習及び心理臨床相談室での実習を行い、学外実習では、協力機関に出向いての実習及びスーパービジョンにより、国際水準を満たした実習時間を確保することとなっている。

資料5 - 10 - - A

法科大学における4大学連携について(法科大学院概要より抜粋)

4大学連携:大学の枠を超えて

~九州大学・熊本大学・琉球大学の各法科大学院との連携カリキュラム~

鹿児島大学法科大学院では、これまでの九州大学法科大学院・熊本大学法科大学院との教育連携を実施してきましたが、平成19年度より、琉球大学法科大学院も連携に加わり、この4大学の新たな連携のもとで、より充実した教育内容を実現し、履修科目に多様性を持たせています。

カリキュラムのコアに位置付けている「法情報論」は、鹿児島大学法科大学院と九州大学法科大学院の間での連携科目であり、テレビ会議システムやWeb技術を利用した通信ツールを使うことにより、同時双方向のコミュニケーションが可能な環境のもとで開講しています。

(出典 鹿児島大学ウェブサイト)

## 【根拠資料欄】

なし

## 【分析結果とその根拠理由】

法科大学院の授業はソクラテスメソッド(教員と学生との闊達な対話を通して進められる授業形式)を旨としている。予習課題などは電子シラバスに予め提示し、受講生は判例等必要な資料をウェブ上から検索して授業に備えている。

臨床心理学研究科では、高度臨床技能を有し、即戦力のある人材を輩出するために実務実習に力を注いでいる。授業形態は、実務家教員と教育研究教員の共同授業である演習科目が多い。選択必修科目の領域科目群、発達科目群、技法科目群ごとに、履修する単位数が決められており、学生の就職希望に応じて系統立てた学習指導が可能である。

以上から授業形態の組合せについては、バランスがとれており、学習指導法も工夫がなされている。

観点5 - 10 - : 教育課程の編成の趣旨に沿って適切なシラバスが作成され、活用されているか。

## 【観点到係る状況】

授業の種類とその基本理念を明記した「履修の手引き」及び各授業科目のシラバス等を作成し、教務担当教員による履修指導が行われている(前述別添資料5 - 8 - - 2)。司法政策研究科、臨床心理学研究科ともに、すべての開講科目につき、予め提示されたシラバスにおいて、授業回ごとに当該授業において検討する論点等や、予習の範囲も具体的に示されている。

## 【根拠資料欄】

なし

## 【分析結果とその根拠理由】

司法政策研究科の電子シラバスシステムでは、授業科目ごとに各授業回にどのような論点を取り上げ、検討するかが具体的に摘示されており、参考判例や文献も示されていることから、予習の範囲も明確となっている。

また、臨床心理学研究科のシラバスにおいても、冊子により授業回ごとの検討内容及び、準備事項が示されている。以上から、シラバスは有効活用されている。

観点5 - 10 - : 通信教育を行う課程を置いている場合には、印刷教材等による授業(添削等による指導を含む。)、放送授業、面接授業(スクーリングを含む。)若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整備され、適切な指導が行われているか。

## 【観点到係る状況】

該当なし

## 【根拠資料欄】

## 【分析結果とその根拠理由】

5 - 11 成績評価や単位認定、修了認定が適切であり、有効なものとなっていること。

観点5 - 11 - : 教育の目的に応じた成績評価基準や修了認定基準が組織として策定され、学生に周知されているか。

## 【観点に係る状況】

司法政策研究科、臨床心理学研究科とも履修指導にあたっては、GPA 制度も導入し、FD 活動を通して客観性・厳格性を確保している。周知に関しては、授業科目ごとに成績評価の方法が定められ、告知されている。成績評価の基準についても研究科として統一的な基準が策定され、修了認定に関しても規定が整備され、学生に周知されている（別添資料5 - 11 - - 1）。

## 【根拠資料欄】

別添資料5 - 11 - - 1 司法政策研究科における最終試験に関する細則

## 【分析結果とその根拠理由】

司法政策研究科では、成績評価について、授業科目ごとに電子シラバスシステム等に明示している。成績評価基準は、研究科規則並びに修学の手引きで明らかとなっている。修了認定に関しては、研究科における最終試験に関する細則に明文化されている。臨床心理学研究科でも同様に成績評価基準は明文化し、履修手引き等で周知している。

以上から学生への周知は行き届いている。

観点5 - 11 - : 成績評価基準や修了認定基準に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。

## 【観点に係る状況】

司法政策研究科では、成績評価は研究科における統一的な基準にしたがって実施されている。定期試験では、科目ごとに成績評価の総括が作成され、教育活動点検評価委員会での審査を経て教授会で審議している。単位の充足に加え、修了試験を課し、教授会での審議により修了認定している（別添資料5 - 11 - - 1）。

臨床心理学研究科での成績評価や修了認定は、統一的な基準に従い、客観性、厳密性を重視している。複数の教員が担当する科目においては、担当教員全員の合議の上で担当責任教員が総合評価を行う。

## 【根拠資料欄】

別添資料5 - 11 - - 1 成績評価について（修学の手引き 司法政策研究科）

## 【分析結果とその根拠理由】

司法政策研究科では、成績評価の総括によって各科目において基準に準拠した評価が実施されたか否かが明らかとなる。また、成績分布一覧表により当該学期の全科目の評価が把握可能となっている。

また、臨床心理学研究科では、シラバス、履修の手引きに開示された統一的な成績評価基準に従って成績評価、単位認定が実施され、修了認定が行われる。

以上から成績評価は適切に実施されている。

観点5 - 11 - : 成績評価等の正確さを担保するための措置が講じられているか。

## 【観点に係る状況】

司法政策研究科では、試験ごとに成績評価総括を作成し、教育活動点検評価委員会での審査を経たうえ教授会で審議を行い、公表している。成績評価についての不服申立て制度を導入している。定期試験答案の学生に対する開示制度も導入済みであり、答案は研究科長が一元的に保管・管理している（別添資料5 - 11 - - 1）。

臨床心理学研究科でも、成績評価の公正性・公平性を確保するために、入学時並びに年度更新時にオリエンテーションを実施して統一的な成績評価基準を開示している。また、科目ごとにシラバス上で詳細な成績評価ポイントを明示している（前述別添資料5 - 8 - - 2）。臨床心理士の職能領域の特殊性を鑑み講義、演習科目では5段階評価、実習科目では4段階評価を取り入れ、教育目的・特性に応じた正確な評価システムの工夫を行っている。

## 【根拠資料欄】

別添資料5 - 11 - - 1 司法政策研究科定期試験答案の保管に関する申し合わせ

## 【分析結果とその根拠理由】

司法政策研究科では、試験実施科目ごとに成績評価総括を公表し、配点や解答のポイントを摘示し、また、自己の試験答案を開示するよう請求することも可能である。さらに、成績評価に疑問がある場合、電子掲示板で担当教員に匿名で質問することも可能となっている。

臨床心理学研究科では、統一的な成績評価基準並びに科目ごとの成績評価ポイントを公表することとしている。

以上から、成績評価等の正確性は確保されている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

## 【優れた点】

本学では、多様な学部編成となっているが、その中で、工学部では、JABEE 認定による教育内容の工夫を早くから実施しており、水産学部では、大学初となる ISO9001 を教育システムに導入し、カリキュラム管理を行うなど、特色ある学習指導法を採用している。

また、大学教育支援プログラム(GP)及び文部科学省委託事業に採択されたユニークな教育内容として、以下の事業を実施している。ほとんどが地域に密着しており、本学の特色が発揮できる内容となっている。

- 「鹿兒島の中に世界をみる教養科目群の構築」(教育センター)、
- 「地域マスコミと連携した総合的キャリア教育」(法文学部)、
- 「離島へき地医療を支える総合小児科医養成」(医学部・歯学部附属病院)、
- 「ISOを活用した教育システムの展開」(水産学部)、
- 「食の安全マネージャー養成プログラム」(農学研究科)、
- 「離島へき地医療を志す医師教育支援」(医学部・歯学部附属病院)

## 【改善を要する点】

特になし

## (3) 基準5の自己評価の概要

教育編成に関しては、基本理念に従い、学士課程及び大学院課程それぞれ部局の特色に基づき編成している。学士課程では、共通教育と専門教育の連携を図りながら各学部・学科が特色に応じた教育を実施している。授業内容と研究成果との関連に関しては、多くの授業で研究成果が授業に反映されている。

学生のニーズ等に対する配慮についても、他学部の授業科目の履修、協定校等との単位互換、インターンシップによる単位認定、補習教育等を、規則等を設け履修要項に明示して実施している。このほかにも講義、演習等において少人数授業や多様なメディア教育等を実施し、TA等の活用も積極的に行っており、加えて、留学生にも配慮した教育を行っている。

各学部のシラバスについては授業内容、学習目標、授業計画等に加え、オフィスアワー等を掲載し、学生にとって履修計画が立てやすい内容になるように工夫している。

自主学習の配慮、基礎学力不足の学生に対しては講義室等の開放や、希望者に対する英語、数学、物理、科学の補習授業を行っており、また、成績評価、卒業判定については、明確な基準を示すとともに公正な評価が実施出来るよう体制を整備している。加えて申立て制度のように疑義に対する対応についても併せて整備している。

このほかに特徴的なものとして、大学教育支援プログラム(GP)等にも複数件が採択されており、今後の成果が期待されているところである。

大学院課程においては、多様な研究科(修士、博士、博士前期・後期)を有しており、それぞれが、学部教育と連携して教育研究を実施している。

教育課程の編成に関しては、各研究科の目標及び社会的ニーズに即した編成を実施しており、また、授業内

容は概ね研究成果を反映したものとなっている。

研究指導に関しては各研究科に応じた指導が展開されており、適切な指導教員の配置を行うと同時に、優秀なTA, RAとして採用し、経済的な支援を行うと同時に、学生の能力育成を行っている。

また、社会人受入れ体制としては、授業の夜間開講などの配慮（体制整備）を行っている。

学位論文審査については、中間審査を設け、常に進捗状況も確認しながら、また、審査体制も外部から審査員を加えることができるよう規則を整備し、常に公正な審査が実施できるよう配慮している。

成績評価、単位認定、修了認定に関しては公正な評価が実施できるよう、予め認定基準をシラバス等に明示したり、疑義が生じた場合の対応について、申立て制度を整備するなどして配慮している。

専門職大学院課程については、司法政策研究科（法科大学院）、臨床心理学研究科の2研究科を設置している。それぞれ、設置趣旨に応じた専門家を養成するために、教育課程を編成し、それに対応した授業を実施しているところである。

授業内容と研究成果の関連に関しては、教育研究教員は、研究成果を授業内容に反映させ、実務家教員は実務家経験に裏打ちされた内容を授業に反映している。

また、シラバスについてもそれぞれの研究科で養成しようとする人材像に合致した教育・研究を実施している。臨床心理学研究科は、19年4月に開設したところであり、法科大学院は、19年3月に初の修了生を送り出した。

